

国分寺市立公民館保育室活動40周年記念事業

# 保育室40年のあゆみ

「大人の学習の場として」

～40年のあゆみを通して大事にしたいこと



日 時：2011 (平成 23)年 11 月 20 日 (日)

13 時 30 分～15 時 30 分

会 場：国分寺市立本多公民館

主 催：保育室活動 40 周年記念事業実行委員会

本多・恋ヶ窪・光・もとまち・並木公民館

国分寺市立公民館保育室活動 40 周年記念事業

# 保育室 40 年のあゆみ

「大人の学習の場として」  
～40 年のあゆみを通して大事にしたいこと

保育室活動 40 周年記念事業実行委員会

## 目 次

### I 40周年記念事業

#### 1. 全体会の記録

1. 五館の公民館保育室の現在 ..... 4
2. 国分寺市立公民館史上初めての託児と運動..... 7
3. 自主グループ保育の要望と並木公民館の建設へ ..... 9  
国分寺市公民館保育室誕生のころ  
自主グループ保育の要望と並木公民館の建設へ
4. 預けることを学習活動へ ..... 12  
私たちも学びたい！  
都公連レポート作成にあたって  
公民館保育に育てられて  
人とのかかわりの中で育つのは大人も一緒
5. 行革と公民館保育室 ..... 16  
五館の会と市長面談始まる
6. 仲間の中で自分をみつける活動から ..... 17  
五館目の保育室誕生  
地域の暮らしをより良いものに（1）  
地域の暮らしをより良いものに（2）  
仲間と学び、職場へ  
親から保育者へ  
預けて学ぶ立場から
7. 意見交換 ..... 26
8. 実行委員長あいさつ ..... 27

### II 40周年記念事業に参加して

1. 来賓の感想..... 28  
すばらしい発言に感謝  
「子育ての社会化」の先駆け、40年の歩み  
子どもと共に育ちながら地域とつながる  
市民同士のつながりをつくる場、社会教育のひとつとして  
館の運営、求める市民、支える職員  
公民館の重みと社会教育の礎  
「投資」としての保育室の意義  
将来の国分寺市を支える人材を育成するためにも

## 地域社会の担い手を育ててきた保育室事業

2. 五館の関係者から .....	32
～本多・恋ヶ窪・光・もとまち・並木公民館～	
3. 当日参加者の声（アンケート） .....	48

### Ⅲ 資料

1. 国分寺市立公民館保育室の40年 .....	52
2. 五館主催事業（保育あり） .....	55
～本多・恋ヶ窪・光・もとまち・並木公民館～	
3. 保育者賃金（予算）の経過 .....	69
4. 公民館だよりに掲載した市民の声・保育室特集 .....	70
5. 保育室関係保存資料一覧（本多公民館所蔵） .....	75
6. 保育室活動40周年記念事業のお知らせ（案内チラシ） .....	76
7. 保育室活動40周年記念事業（プログラム） .....	77
8. 実行委員会の経過 .....	78

# I 40周年記念事業

## 1. 全体会の記録

### 1. 五館の公民館保育室の現在

#### ★本多公民館

本多の自主グループは、活動年数14年のグループを筆頭に、現在7グループが活動しています。子ども33人に対して、大人は60人と大人の比率が高いのが特徴です。

「幼い子のいる親のための教室」は、10月から親子ともに20人ずつでスタートし、子どもたちは全員が第一子です。

「保育室活動を考える会」の記録である保育室だよりは、利用者・保育者・職員の三者で作成し、原則として月1回発行しています。「保育室のあゆみ」は、1年間の活動を記録にまとめたもので、こちらも三者で作成しています。

「母の会」は、親たちが自主的に活動しており、「五館の会」のことなど全グループが共通認識できるよう話し合いを設けています。春の新緑まつりでは、飾り付けや、小さい子ども向けの作品を上映したり、冬にはお楽しみ会を開催し、職員と保育者も招待され、楽しいひと時を持っています。こういったグループを越えたつながりも、継続していく源になっていることと思います。



#### ★恋ヶ窪公民館

恋ヶ窪公民館では、現在「幼い子のいる親のための教室」と、2つの自主グループが活動しています。

1つは、活動4年目の「<sup>メイグリーン</sup>美麗心」で母10人、子6人です。フラダンスを柱に活動しています。フラダンスは、保育室グループが合同で行うクリスマス会などで披露しています。公



民館祭では、子どもまつりに参加し「牛乳パックで工作」の店を出し、地域の子どもたちを楽しませてくれました。その時には、お父さんたちにも協力をしてもらいました。フラのスカートも手作りしているほか、公民館の近くにある施設から依頼され、ぞうきん作りのボランティア活動にもかかわっています。

もう1つは、活動1年目の「モーネ」で母9人、子9人です。「幼い子」の時は、子育て中に役立つ耳寄り情報満載のレシピ集を作成しました。7月には、放射能に詳しい方を招いて講演会をしました。

今年度の「幼い子のいる親のための教室」は、長年保育士としてお勤めされた武蔵野市子ども家庭支援センターの吉川良子<sup>よしこ</sup>さんを講師に迎え、母16人、子15人で6月からスタートしました。

保育が終わると、中庭のスペースを利用して親子で楽しくお弁当を食べたりして、グループ交流を深めています。



## ★光公民館

光公民館が誕生して35年。職員の尽力やお母さんたちの働きかけにより、畳スペースや大型遊具も設置されました。

現在、5月から11月までの講座「幼い子のいる親のための教室」や、2つのグループ「楓」と「バンブルビー」が活動をしています。

そのほかには、生活日本語教室も行われており、保育室では自主グループの子どもたちと外国の子どもたちが一緒に2時間を過ごしています。言葉はなかなか通じませんが、顔を見て名前を呼び合うことで、お互いの気持ちが少しずつ分かってきて、今では子どもたちにとってお互いが大切な仲間になってきています。

10月に行われた公民館祭では、お母さんたちがグループを越えて協力し合い、保育室公開、グループの活動報告、ワークショップを行い、大勢の方に来ていただきました。グループ数は少ないですが、お母さんたちは保育室活動を通して仲間とともに学習を続けています。



## ★もとまち公民館

もとまち公民館は、市内で初めて住民参加の建設検討委員会が設置され、1978(S53)年9月に開館し、今年で33年目を迎えます。保育室は市民の意向を反映し、東南の角に作られました。大人の学習活動のための保育室であり、合わせて子どもたちの、仲間の中で育つという視点も大切に持って続けられています。

現在は火曜日、金曜日が自主グループの活動日で、それぞれ2グループ、合計4グループが保育室活動を行っています。また、9月からは「幼い子のいる親のための教室」が開かれています。

毎年10月に行われる公民館祭「ふれあいまつり」には、自主グループのお母さんたちが共同でバザーを行っています。バザーの収益金は、地域で活動する団体などに寄付しています。



## ★並木公民館

並木公民館は、建設検討委員会での話し合いを経て、1988(S63)年に建設されました。現在、7つの自主活動グループと、9月から始まった「幼い子のいる親のための教室」の合計子ども48人、大人55人が活動しています。

子どもたちは、保育室専用のアプローチを通過して入室します。東南の角にある保育室は、日当たりが良く和室コーナーもあり、違う年齢の子どもたちがかかわり合って、伸び伸びと遊ぶことができます。

子どもたちが遊んでいる間、子育てに役立つ情報をフリーペーパーにして配布するなど、お母さんたちは活動を活発に行っています。2時間の保育が終わると、子どもたちは元気にお母さんのもとへと帰ります。窓際でおばちゃんたちとのさよならを楽しむ子、その日の出来事をお母さんと話す子、それぞれの帰り道です。



## 2. 国分寺市立公民館史上初めての託児と運動

保育の始まりは、1971 (S46) 年 4 月、子どもの本を読み合うグループが誕生し、会員の家で子どもを抱えての学習をしたのがきっかけでした。子どもと一緒にの学習は、親が落ち着かないだけでなく、大人に付き合わされる子どもにとってもどうなのだろう、と互いにマイナスの要素を抱えるものでした。子どもの過ごさせ方について、いろいろな策を立て実行に移してみましたが、やはり落ち着いた学習は持てませんでした。

そのころ、公民館で教育講座が開かれることを知り、どうしても参加したいので、子どもを預かってほしいと依頼をし、念願かなって託児を受け入れてもらいました。これが保育室の原点です。ただし、専用保育室がなかったため、子どもと保育者は苦勞をしました。何か良い解決策はないかと、他市の保育施設の見学をしたり、資料の読み込みにも力を入れ、署名運動や請願陳情の作業に取りかかりました。そして1972 (S47) 年、「公民館に附属保育室を設置してください!!」と議会に陳情し、みごとに採択されました。

当時の保育室を考える会の記録集である『母と子のひろば』に書かれている運動の記録の追記の中には、「ここを生かすも殺すも、それは、また母親たちの意識と活動にかかっていると思う。保育室設置を要望し、推進したのものとして一番心にかかるのは、その正しい運営と、そこを利用する母親たちの姿勢である。そこにあるから、便利だからと考えられるのは、その通りなのだが、なぜ、そこにあるのか、なぜ、子どもを預けて学習するのか、ちょっと立ち止まって考えてほしい」と記されています。保育室活動において大事にしなければならぬことを、三十数年も前に提案されていました。

30周年事業のときに、「自立した市民になって、自分たちがどうしたいのかを声に出していくことが学習です」とおっしゃった矢野悦さんのお言葉と、当時のご苦勞をもともしない明るく生き生きとされたお姿が今でも忘れられません。感謝とともに、保育室の成り立ちをしっかりと引き継いでいかなければと思っております。

次ページにたんぽぽグループが作成した展示用資料を、一部掲載しています。

(文責 廣松千晶)





## 5. 託児の輪は広がってきたけれどー

47年6月、第2回教育講座が開かれこのときも託児が行われました。

テーマ  
再び日本の教育を考える  
講師 小林文人氏  
大橋謙策氏  
保母 9名  
(婦人学級とんぐりグループと  
そのほかの有志)

◎ 託児への参加者数

	母親	子ども
グループから	3	6
東恋6丁目	4	5
そのほかの町	4	5
合計	11	16



当日の託児様子



このように学習する母親も  
託児される子どももふえてきましたけれども  
専用保育室ではないため 設備も不十分で  
保母さんは苦勞し 子どもも疲れました。  
さて、何かいい解決策はないものか？  
他の市ではどうなのだろうか？

## 6. 子連れで保育施設の見学にでかける



小平公民館  
真新しく青畳のにおいが印象的  
てたいくうらやましく思いました。

国立公民館 あまりなくない  
所に、スバリ台、ブランコピアノ等が  
あり、優しい保母さんと楽しそう。



三鷹公民館  
美人の専任保母さん  
デラックスな施設と備品におどろく。

### 保育問題を社会教育の一環として考える

47年9月30日 教育講座参加者によって  
「市民の声を市政に反映させる会」が持たれ、その中か  
の一分科会として「社会教育における保育について」がとりあ  
げられた。グループからも多数参加してグループ以外のお母さん  
たちと討議を重ねた。

これでグループ内での乳幼児  
保育問題を社会的に解決し  
位置づけられる窓口が確立。



## 7. 公民館に附属保育室を設置して下さい!!

— 市議会に陳情し採択される —  
提出した陳情書と趣意書



署名を整理しているところ  
みなさんに御署名をお願い  
しましたところ 820人の方々の  
御賛同を得ました。  
ありがとうございました



9月28日の定例市議会でこの件が審議  
されることを聞き、グループのお母さんたちは  
乳母車をおして傍聴に—  
「この件につきましては採択と決定はす。  
議長さんの一声、ワーッと歓声をあげたい気持  
をおさえて廊下に出ました。良かったわね

うん、うん、言葉にならない あついものが胸の中をはりました。  
国分寺のお母さんと子供の保育室が出来ることに決まったのです  
バンザイ—この嬉しそうなお母さんたちの顔を御覧下さい。

## 8. 私達は こう 思うのです

こんな時代だから、子供を育てながら感じる飢え  
あせり、疑問そして空白感を解決したいと外にむか  
て求める心が起ります。それが学不心ならば是非  
満足させたいものです。しかし子供を背負ったり抱いたり  
して外に出て行けるでしょうか？といて我慢しては  
自分が育ちません。

私達の子連れグループが がさがさしながら地域で学習  
を始め一年半になりました。母親が学習する時に、子連れ  
に対して 周囲の理解があっても、子供にとっては—  
・学習の場にともなわれることは迷惑だということ  
・子供は子供達で楽しく遊びながらしつけされ 保育されなければ  
片手落ちだということがわかり 早速グループでは実践し、市政にも  
声を出しました。幸にも「社会教育における保育を考える会」が  
新しく発足したので、この会とかわ  
り合いを持ちながら グループ学  
習を続けて一人一人の生きがい  
を確めてゆきたいと思ひます。  
一日も早い保育所実現のために  
皆様の暖かい理解とご協力を願って。



### 3. 自主グループ保育の要望と並木公民館の建設へ

#### 国分寺市公民館保育室誕生のころ

高橋雪子（元本多・光公民館館長）

公民館保育室活動開始40年を振り返り、当時担当者として公民館保育室が始められていったころのことをお伝えします。

40年前の公民館は、講座で保育は行っていませんでした。時には職員が市民の方の連れてきた子どもを見守るといったようなこともありました。40年前実施した教育講座で、市民からの保育の要望が出され、その後の市民の取り組みもあり、現在の保育室活動につながっていったわけです。今回は館長でなければできないこととして、保育者賃金をいかに獲得していったかというお話しをしたいと思います。最初は、予算のない中で、先輩の学習者の方に保育者をお願いしながら、最終的には20,200円を支出できました。翌1972（S47）年には、32,000円の予算化ができ、1973（S48）年には200,000円、さらに1974（S49）年には869,000円というように増額することができ、保育室に子どもを預ける学習活動が活発になりました。それまで取り組めなかった幼児教育講座等も増えていきました。

このように、活動が認知されていった背景には、1つには、当時公民館は1館しかなく、市内各地で活動していた婦人学級22グループが協力して声を出し、市を動かしたことです。2つ目としては教育・歴史・憲法講座等で学んでいた参加者も、自分の生き方を変えていき、学習の必要性に向けて声を出していったこと。3つ目には、国分寺の社会教育を考える市民集会が開かれ、その中で保育室のことが議論された。というように、保育室活動を実施していく方向での、市民、特に女性の力が大きかったことがあげられます。

また、1975（S50）年の国際婦人年の取り組みの中で、女性問題に対する理解が深まり、女性団体が活発に活動できる条件をバックアップしていく認識の中で、国分寺市議会も理解をしてくださった背景があったといえます。

国分寺市はいつでも予算が潤沢ということはありませんでしたが、そのころの公民館保育室予算の増加は、市民も職員もとても張り合いのあることでしたし、活動も活発になっていきました。

現在予算の厳しい中、さらに公民館活動を発展させるために、日本全国の大きな課題である、高齢化や少子化問題に公民館が今後どのように切り込んでいけるかが問われていると思います。



## 自主グループ保育の要望と並木公民館の建設へ

片桐純子（元光公民館学習者・保育者）

私は1978(S53)年4月、当時4歳の次男を連れ、光公民館の保育付きの児童文学講座に参加しました。初めて保育室に子どもを預けた私は、自分の充実した時間を持ち、講座の参加者の皆さんとの出会いは大きな喜びでした。子どもたちもとても楽しそうでした。ところが、講座が終わり、自主グループ「ぐるうふ・めるへん」(以下「めるへん」と表す)になったら保育がなくなりました。職員の百瀬さんに聞くと、本多公民館の自主グループは、自分たちで市に要望し公費保育がされていることが分かりました。

「めるへん」も市に要望することになりましたが、予算がついても来年度です。それまでの半年間どうするか困りました。親子一緒では子どもに我慢させることになります。保育者の方たちに相談すると「自分たちが子育てしていたころは、学習の機会がなくて残念だったから頑張る」と無償で保育を引き受けてくださいました。同時にメンバーの中からも、「女が子どもをみるのは当たり前と主婦の働きを無償にしてしまうのは同性としてよくないと思う」という声があがり、半年後には、自分の子は幼稚園に行くメンバーたちも、自分のことのように一生懸命取り組んでくれました。

要望書はリーダーの大門さん、北岡さんが中心になってまとめ、みんなで市長、教育長に届けました。その要望書には当時の核家族の閉塞した母子の暮らしの問題を踏まえ、子育て中だからこそ共に学びたいこと、そして母親の都合による一時預けではなく、子どもたちも仲間と共に育ち合う保育をと主張していました。市役所に子連れで集まった私たちは、初めてのことで戸惑いながらも“なんとかしなくっちゃ”と目を輝かせ、勢いがありました。この行動や主張が認められ、次年度には公費保育が実現しました。当時の私はこの行動そのものが自分の女性問題克服の1つの実践であることも知らず、学習権という言葉も知らず、ただ一生懸命でしたが、「めるへん」は子どもたちが良い環境の中で育つ権利を得、私たちは改めて学習権を実現できたのだと思います。

「めるへん」は、以後次々に誕生する自主グループの公費保育が実現するよう協力し、それが他館の自主グループにも受け継がれ、4館合同で陳情しながら予算が増額されていきました。1983(S58)年には、行革で市から自主グループ公費保育見直し案や保育室の兼用の方向が出ましたが、私たちは4館合同で学習会を開き、無料の意味を確かめ、陳情、署名運動を展開して権利を守りました。もちろん、議員さんたちにも



大きな力を発揮していただきました。

こうやって運動や学習をして危機を乗り越えていたころ、1985 (S60) 年、今の並木公民館・図書館の建設に向け新たな学習会が始まり、建設検討委員会が発足しました。私はこの建設検討委員だったのですが、ここは公的な社会教育機関の公民館・図書館ではなく、事務局主導で単なる集会施設の建設計画であることがはっきりしてきました。保育室も目的が違う図書館のおはなし室と兼用する案が出ました。私は4館のグループの皆さんに訴えると、すぐ4館合同で専用保育室設置の要望書を委員長あてに出され、ようやく並木公民館にも専用保育室が設置されることになりました。

並木公民館の開館前、第5回公民館のつどい（現けやきの広場）には4館の若い子育て中のお母さんたちが、並木公民館の経過を踏まえて学習会をしています。並木公民館が開設されてからは五館合同で動き、2010 (H22) 年恋ヶ窪公民館に待望の専用保育室が設置されました。

振り返ってみると、この40年間のうち24年間私は保育者をやってきました。一時預かりではなく子どもたちが一定のメンバーで継続して共に育つことを大事にやってきました。そして、子どもたちの育ち合う姿から、お母さんたちは女性問題を克服されていきました。その姿に頭が下がる思いで応援し、保育者集団として関わられたことを嬉しく思います。これからも危機が訪れることでしよう。しかし、公費保育の権利を失ってはならないと思います。

No.274 国分寺市公民館だより 昭和63年9月1日(1988) (2)

---



会場案内



**日 時** 9月18日(日) 午前10時～午後4時10分

**会 場** 並木公民館

**共 催** 公民館のつどい実行委員会、本多・恋ヶ窪・光・もともち・並木公民館

公民館ができて25周年を迎えた今年、待望の5館目の並木公民館が誕生しました。今年の公民館のつどいは、並木公民館の誕生を祝うとともに、国分寺の公民館が25年にわたり地域住民の学習・文化・交流の場としてどんな役割を果たしてきたのか、市民が公民館を拠点にして、どう日々の暮らしを豊かにしてきたのかを明らかにし、今後の公民館について考えたいと思います。情報化社会、高齢化社会といわれるなかで、私たちが生涯にわたって地域で充実した学習を行っていくために、公民館への期待はますます大きいものがあります。すでに公民館を利用されている方はもちろん、これから公民館活動に参加したいとお考えの方、どうぞ多数のご参加をお待ちしています。なお本年度は、初めて市民と職員による企画委員会方式をとり、今までにない企画に取り組んでいます。下記のプログラム紹介でおわかりのように、午前中のミニ劇場では、顔なじみの方々がたくさん登場して、冷汗かきかき一生懸命演じます。見逃がすと損をしますよ。午後はちょっと固くシンポジウムです。各館から3名の市民の方々の報告があります。最後の交流パーティーで何ができるかは当日のお楽しみ。新しい並木公民館の大会議室いっぱいみなさんの明るく楽しい元気な声が満ちあふれ、明日の国分寺の発展の大きな原動力となることを願っています。

**プログラム**

9:30	受付開始	オープニングコーラス クノスベンコール
10:00	第1部 ミニ劇場 「公民館・このすばらしきもの」	最近国分寺へ越してきた子育て中の若い母親を主人公に、さまざまな公民館活動を紹介しながら、市民にとって公民館の果たす役割を考えようという「本月初演」の作品です。
12:00	昼食・施設見学	中央のホールでは、各館で活動するグループの作品展示が行われています。
1:00	第2部 シンポジウム 「市民の暮らしと公民館」	市民の暮らしと公民館はどのようななかかわりを持っているのでしょうか。3人の方の活動報告をとおして、公民館ならではの市民の活動・交流・ネットワークを浮かびあがらせてみたいと思います。
3:00	第3部 交流パーティー	並木の開館とつどいの成功を祝って、一日の感想や日ごろの公民館による思いを語りあい、余興をまじえて楽しく親睦を深めましょう。(会費1000円)
4:10		

## 4. 預けることを学習活動へ

### 私たちも学びたい！

東 洋子（元本多公民館学習者）

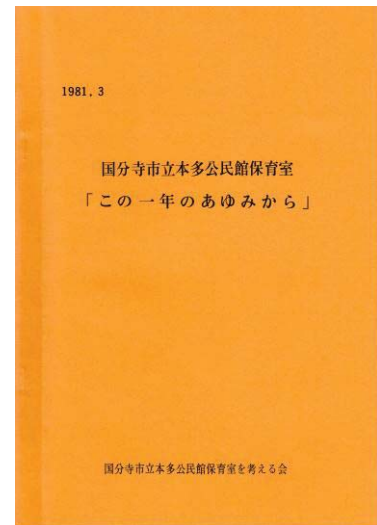
公民館保育室40周年おめでとうございます。私の娘は今年40歳になります。先ほど元館長の高橋さんがお話しされた「発足当時、保育者の手が十分でない時には保育の手伝いをするこゝもあつた」と話されましたが、娘は高橋さんにおんぶしていただいた幸運な子の1人です。

その時から30年以上が過ぎ、目まぐるしい日々の中で保育室や当時の仲間とのつながりも切れたまま、今回お話をする機会をいただき、私は正直戸惑いました。今の私の原点を作ってくれた保育室での保育者、職員、仲間との学び合い、行政への働きかけ、都公連での発表等の記憶は忘却のかなたとなり、また資料も引っ越し、転勤で失っていました。そこで探し出した当時のグループの仲間に協力をお願いし、本日は私たち4人のカルテットでお話しいたします。一番バッターの私が前節を、古田島、佐藤、近藤さんがそれぞれの「私と公民館」についてお話しします。

40年前に幼い子を持つ若い母親が「私たちも学びたい」との切実な声をあげ、保育室設置という一粒の種がここ国分寺市の大地にまかれました。この種を利用者、協力する市民・公民館職員……が大切に育て次世代に引き継ぎ、現在専用保育室を備えた5つの公民館という大きな枝を張った大木に育ちました。国分寺市には名の知れた遊園地や歓楽街ありません。「国分寺市の自慢ってどんな所？」と聞かれると、私は胸を張って「公民館とその活動」と答えます。

多くの市民の長い間の努力と英知でこれまで育ててきた公民館という大木こそが、国分寺市の誇りであり財産です。世の中が急激に変化する現在こそ、公民館の果す役割はこれからもっと広がっていくことでしょう。

では、次の方々のそれぞれの立場からのお話にバトンタッチしたいと思います。ありがとうございました。



### 都公連レポート作成にあたって

古田島由起子（元本多公民館学習者）

公民館保育室には長男と次男の2人がお世話になりました。それまでの24時間親子密着の息苦しくなるような日常生活から少しの間でも1人になり、また学生時代に戻ったような解放感を味わわせてもらえるかけがえのない時間でした。

そのことは皆さまがいろいろと話されると思いますので、今日は都公連に提出するレポート作成のこゝについて少し話させていただきます。

都公連レポートとは「子どもを預けることを学習とする」という国立市公民館の取

り組みを受けて、私たちもそれを受け継ぎ、本多公民館の取り組みをレポートにまとめようとするのでした。

三十数年前のことでほとんどのことは記憶のかなたにかすんでしまっていますが、思い出すままに少しお話しさせていただきます。

レポートは学習者と保育者による「保育室活動を考える会」が中心になって書き始めました。初めはどこから手をつけていいかわからず、右往左往の連続でした。少し形が見えてきたと思っても「いやそれは違う」と誰かが言う。文章としてもまとまらない。本質が見えてこない。それは国立市のまねをしているだけじゃないか、など駄目だしの連続でした。ぼんやりと形が見えてきても文章にするとうまくいかない。公民館や個人の家で夜もみんな集まって議論を重ねました。苦しい作業だったけれど私にとっては楽しい作業でもありました。今まで家事育児だけに追われていた頭の違う部分が目覚めて快感でもありました。みんなで意見を出し合い1つのものを作りあげていく喜びもありました。レポートが書きあがった時は1つのことを成しとげた達成感で、みんなで喜び合いました。

このレポートを書くことをきっかけにして、私は文章を書くことの楽しさを覚えしました。何か書いてみたいと思っていた矢先、児童文学の同人誌の人に誘われて早速同人になりました。初めは恥をかくことの連続、恥ずかしい思いも悔しい思いも多々しましたが、結局20年間続けました。アンソロジーではありますが、数冊の本を出すこともできました。ずっと書いていこうと思っていましたが、数年前身内の相次ぐ看護や死、愛犬の1年以上にわたる認知症の看護などで心身ともに疲れ果ててしまい、軽いうつ病になり言葉が出てこなくなりました。けれども同人の人たちとの作品をめぐる切磋琢磨した時間は、私にかけがえのないものを残してくれました。人生についてや物の見

方、人との距離の取り方などがいっぱいあります。これも公民館保育室が原点であり、保育があったからだ感謝しています。

本当にありがとうございました。

**第19回 東京都公民館大会 第3分科会**  
 <公民館保育室のあり方>の報告より

**2. 国分寺市本多公民館保育室のこの一年のあゆみから**  
 ~ 国立の実践を受けとめて

事例発表者 本多公民館保育室を考える会  
 古田 由紀子

はじめに

I 国立市公民館保育室の実践によれて

II 国立市公民館保育室の「方法」をとり入れる。

III とり入れていく中で

IV 郡公連のレポート作り

V 1月19日からの再出発

VI たしかめたいこと

**はじめに**

昨年の18回郡公連大会で、国立市公民館保育室運営会議から、「学習としての託児—公民館保育室のあり方を考える」というテーマで問題提起があり、公民館保育室の活動を、大人の自己教育活動としてとらえる視点が提示されました。大会の終りに、このレポートで提示された「学習としての託児」という視点を受けとめ、それぞれの公民館保育室で、実践を通して確かめ、次の大会にもちようという確認がなされました。

この確認に従い、私たちは預かる側と預ける側が、一緒に保育室の運営について協議する場である「本多公民館保育室を考える会」を中心に、この一年活動してきました。そして、私た

ちの活動を他市の実践とつき合わせて検討するために、レポートをひき受けました。

レポート作りの過程で、国分寺市内外の公民館保育室の職員、保育者に、「昨年国立の実践報告を各公民館の保育室では、どう受けとめ実践したか、本多公民館保育室のレポートをもとに、意見交換をしたい。」と呼びかけ、1月10日交流会を開きました。1月19日には、私たちの報告が、国立のレポートを受けとめたものになっているのかどうかの確認をするために、昨年のレポーターである国立市公民館保育室の人たちと、学習会をもちました。私たちは、「学習としての託児」という視点で保育室活動を洗い直し、変えてゆく実践をしてきたつ

もりでしたが、国立の人たちから、「レポートからこの視点が読みとれない。」との指摘を受け、初めて、それは単にレポートだけの問題でなく、私たちが実践をしていく中で、「学習としての託児」のとりえ方に問題があったことに気づきました。

従って、私たちは、今日のレポートで、この一年間行ってきた活動を報告するというより、むしろ、私たちのレポート原案と活動の見直しの中で、何に気づいたのかを提示したいと考え、そうする事が、私たちの保育活動にとっても、今日の会にとっても意味があると考えました。このレポートをたたき台に、皆さんがそれぞれの場で実践してきたこととつき合わせ、改めて、「学習としての託児」とは何かを共に考えたいと思います。

このレポートは、「保育室を考える会」を中心に、母親、保育者、職員の三者で話し合い、これをもとに、預ける側から見えたことを中心に作成しました。大会資料集でお知らせしたレポート内容とはちがったものになったことを、御了解ください。



## 公民館保育室に育てられて

佐藤由紀子（元本多公民館学習者）

本多公民館に保育室が設立されて間もないころ、かれこれ40年近くも前に、娘を預かっていただいて公民館主催の講座に参加し、その後自主グループで活動した者です。講座の内容はほとんど忘れてしまいましたが、その時に出会った公民館職員の方々、保育者の方々、そして一緒に活動した若いお母さんたちから学んだことはその後の私の生活の中でとても貴重なものとなりました。もっと長く自主グループの活動を続けたかったのですが、夫の海外転勤が決まり2年ほどで国分寺市を離れニューヨーク郊外のまちに住むようになりました。日本では公民館保育室を利用するようになって初めて子どもから離れて自分の時間が持てるという体験をした私でしたが、夫婦で参加しなければならない行事も多いアメリカでは当時からベビーシッターの制度があり、なんて便利なのだろうとびっくりしました。その後子どもが小学生になってから2度目のアメリカ駐在をしたときには、夏休みになると1～2週間からときには1か月近くも泊り込みのサマーキャンプに子どもを預けることができることを知って、またまた驚いたものです。でも、だんだんアメリカのいろいろな事情が分かってくると、ベビーシッターもサマーキャンプも必ずしも子どもの立場からきめ細かく配慮されたものではないということが見えるようになりました。公民館保育室で何度も考えさせられた「子どもを預ける体験から親子が学ぶ」とか「あえて金銭を媒介しないことで自覚的な市民として育つ」というような発想は、当然のことながらベビーシッターにもサマーキャンプにもありません。「お金を払えば子どもの世話をしてもらえる」とは何とも便利で面倒のないことですが、公民館保育室活動で育った私には全面的に納得できないものが残るのです。

保育室でお世話になって学んだことのもう1点は、日本の女性たちの能力の高さを確信できたことです。当時、保育者の方々も私たち利用者もほとんどがいわゆる専業主婦だったと思います。けれど、その女性たちは子育てをし、家庭を営むかたわらでPTAや生協の活動、地域自治会の世話、いろいろな市民運動などを担う人々でもありました。ニューヨーク在住中は、日本人駐在員の奥さんたちと接しているアメリカの女性たちから「日本の女性は礼儀正しくてお料理も手芸もすばらしく上手ね。子どもたちもきちんとしつけているし。でも、どうして自分の意見を主張しないのかしら。夫に従順に家庭を守る役割しかないから？」という日本女性についてのかなりステレオタイプの感想をたびたび聞かされました。その都度「そんなことはない。日本の女たちもきちんと自分の意見を持っているし、アメリカの女性とは違う形かもしれないけれど社会的な活動もしている」と自信を持って言えたのは、公民館で知り合った女性たちのことが念頭にあったからです。ただ、「英語で意見を言えと言われても……」と



も思ったのです。それで、「そうだ、アメリカ人に日本語を教えよう。日本語でなら堂々と議論できる日本女性がたくさんいるのだから」と考えたことが、現在の私につながっています。帰国して娘が小学校に入ると同時に日本語教師養成講座に通いました。日本語学習者が急激に増えた時代背景にも恵まれて、以来30年にわたり日本語教育に従事していますが、これも公民館保育室との出会いがあったからこそです。還暦をはるかに過ぎて直接保育室活動で恩返しをすることはできませんが、何か別のところででも国分寺市にお世話になったお礼ができるといいなあと思っています。

## 人とのかかわりの中で育つのは大人も一緒

近藤千恵（元本多公民館学習者）

私には現在、34歳、32歳、28歳になる3人の子供がいます。3人とも保育室経験者です。私は、「保育グループ」というグループに所属し、公民館活動を行ってきました。一番下の子が小学校低学年の時から20歳になるまで、保育者として保育室活動にかかわってきました。預ける側から預かる側になり、感じたことがありました。1つは、保育者も「保育者グループ」というグループ名で、公民館活動を行っているのだということ。そしてもう1つは、保育室での「保育目標」。新年度を迎えるたびに、毎年「保育目標」の検討・確認を行います。その一節に“人は人とのかかわりの中で育つ”とあります。私は、この一節は、子どもだけでなく、私たち大人も一緒だと思いました。

今日は、大勢の懐かしいお顔にお目にかかれ、同窓会に出席したような気持ちです。

お母さんのグループ④  
「母子分離の”学習”を考える  
「保育グループ」

東京都国分寺市



「保育グループ」という十一人のお母さんの集まりが国分寺市にあります。市の本多公民館の保育室に子供を預けながら、週一回、勉強をする仲間たちです。昭和四十七年、公民館が主催した「社会教育を考える会」から発展したグループ。

そのときの様子を東洋子さんは、「私は結婚後も働いていて、子供が生まれたために家庭にはいつて子育てに専念したのです。でも、越してきたばかりで友達もなく、一歳の子供と家庭にこもりつきり。それこそ息づまるような生活。もう自分がダメになりそうで、これでは子供のためにもよくない。そう思って講座をたずねたのです」といいます。保育室に子供を預けてお母さんが勉強できる――それが魅力だったのです。

お母さんは子育てから解放されたボランティアのお母さん。保育室には遊具もない状態でしたが、週一回、二時間でも子供から離れて勉強できるのは、「ウーッ」と叫びたいほどの解放感（入会一年の近藤千恵さん）だったそうです。講座はすぐに修了しましたが、お母さん自身が自立、成長しなければ、ほんとうの子育てはできないのではないかと、ということから「保育グループ」を作り、勉強を継続することにしたのです。

まずはじめたことは、公民館の保育室の充実でした。保育室を確保し、専任の保育さんをおいてもらおうというのです。でも、道はけわしかったのです。

「小さい子は母親のひざの上で育てるべきだ。女のひまつぶしに、なんで公費で保育をやとうのだ」という声が公的立場の人から帰ってきたのです。ほかのグループとともに署名、陳情し、やっと市の予算をとったのは二年後でした。いま、本多公民館には専任の保育さんが八人、週四回出てきて、グループ活動をするお母さんの子供を保育してくれます。

現在、お母さんたちは「子どもをあずける」国立市公民館保育室運営会議編纂の本の読書会と、年一回の文集「かんの」の発行準備をしています。

「文の上手、下手は問いません。主婦は書くことから離れすぎているから、一年に一度、本の感想でもいいから書くのです。書くためには、自分の考えをまとめる必要があります。自分を見つめるいいチャンスなのです」と東さん。

「とにかく、家のなかで子育てをしながらひとりで本を読んでも、心は満たされないのです。ひとときでも、子供を母親から完全に離し、子供も内容のともなうた保育をうけながら、母親も勉強する。そういうことを、私たちがだけが享受するのではなく、多くのお母さんたちにも経験させてあげたい。その輪を広げたいのです」と古田島田紀子さんはいいます。

このグループが長くつづいているのも、若いお母さんたちが、いつも直面し、悩み苦しんでいる子供と母親の問題に、正面からとりくんでいるからでしょう。



## 5. 行革と公民館保育室

### 五館の会と市長面談始まる

長谷部豊子（元本多公民館学習者）

私は、1994（H6）年本多公民館主催「母と子の教室」に参加し、翌年「くまさん<sup>2</sup>」で自主グループ活動を始め、14年間グループ活動をしていた長谷部です。「行政改革と保育室活動」については、私より熱心に活動していた方が、この場には多くいらっしゃると思います。

今回のお話をするうえで、本多公民館の『保育室のあゆみ』や『保育室30周年のつどい』等の資料、自主グループくまさん<sup>2</sup>のノートを見て、振り返ることができました。その当時のグループのノートには、「考える会」や「五館の会」の内容が書いてあり、行革に対して活発に活動していたことを思い出しました。私たちくまさん<sup>2</sup>は、自主グループを始めたころだったので、何がなんだかよく分からず「五館の会」等に出席していたことや、グループ活動の中でその問題を話し合っていた時間が多くあったように記憶しています。

今考えると、公民館の学習は個人の知識を得るための学習ではなく、仲間と共有し学び考え合って、仲間と共に育ち合っていく場なのだと再認識しました。

その当時の保育室活動が行政改革の中での早期に行政改革すべき事項にあったことを思い出しました。

1996（H8）年の行政改革検討委員会中間答申素案を見ると「学習というものは、その要する費用は学習者自身が負担する。これが学習効果を高めるものである。ところが公民館保育室自主グループは会場費や場合によっては講師料の負担もなく、その上自身の学習活動中の子どもはヘルパーに預け、その賃金は公費で支払われている…」と記載されていました。

そして、行革に対して市民に意見を求められたとき、寄せられた意見の総数336件。そのうち、公民館保育室94件があったとのこと。私は行革に対して公聴会が聞かれたとき、保育室の大事さを伝えることが必要だと思い、出席したことを思い出しました。

その後、要綱（国分寺市立公民館保育室運営規程・国分寺市立公民館保育室使用実施細目）の運営規程には自主グループに対する保育は年間24回の公費保育を保障する。と規定され、このことはとても大事なことだったと思います。

今後、このまま公民館保育室が安定的に継続していくという保障はないように思います。行財政や社会情勢によって検討課題にあがり、そのとき公民館保育室を利用している市民や職員の意識等が大きく左右することがある



と思います。

公民館保育室活動をするにあたっては、自分たちのグループ活動の1つとして、「保育室活動を考える会」があり、「五館の会」があり、その中で館長面談や教育長面談、市長面談といった行政の方への理解を求める活動も続けていくことの大切さもあると思います。

最後に、私は、14年間のグループ活動を通して、我が子は2人なので5年間の保育室活動ではありましたが、私にとって“人と人とがかかわりをもって、学び、お互いが成長していく場”が公民館保育室であると思っています。

## 6. 仲間の中で自分をみつける活動から

### 五館目の保育室誕生

大賀文子（恋ヶ窪公民館保育者）

昨年春、国分寺市の五館ある公民館の中で、唯一専用保育室のなかった恋ヶ窪公民館に新しい保育室が誕生しました。

私と公民館との出会いは、今から12年前の長男が2歳の時でした。ちょうど国分寺市に越してきて日も浅く、初めての子育てと初めての土地での生活に不安を抱いていたころでした。公民館主催の講座に申し込み、親子ともに仲間や友達との輪を広げることができました。その後、自主グループとして活動し社会にも少しずつ目を向けられるようになりました。そして第二子の娘も保育室にお世話になり、娘が卒室して保育者になりました。

それまでは保育室の代わりに和室で保育をしていたのですが、保育者の立場で実際に保育をしてみると、その不便さを強く実感することになりました。和室なのでもちろん畳敷きです。着物の着付けや茶道などのグループも多く利用するので、畳はいつもきれいな状態にしておかなければなりません。食べこぼしやおもらしにも、とても気を使っていました……それまでも、和室を少しでも使いやすくなるようにと市民の要望でベランダ部分を増築し、新たにおもちゃを収納する棚ができました。しかしトイレや手洗い場が外にあったため、機能的にはあまり変わりませんでした。一番不便だったのは、やはりトイレや手洗いです。おやつの手洗いでは、子どもたちを一度和室から出し、隣接する茶道用の小さな水道で、順番に手を洗っていました。水道が高い位置にあるので、子どもの体を支えながらの手洗いです。トイレの方も、やはり一度和室から出て、子ども用のサンダルを履き、長い廊下を歩いて大人用のトイレまで連れて行かなければいけませんでした。講座室のドアが開いていたりすると、学習中のお母さんを見つけて子どもが動揺してしまうのではないかと、気を使ったりもしました。トイレに子どもを連れていく間は、和室での保育者の人数が減ってしまいます。

また専用保育室ではないので、大型遊具は置けません。かわいらしい装飾もできま

せん。不便さゆえ、他館と比べ、預かれる子どもの人数も少なく、保育開始月齢も10か月からと4か月も遅くなっていました。

そんなさまざまな不便さを解消するべく、「五館の会」では恋ヶ窪公民館の専用保育室を作ってほしいと、長年要望してきました。その強い思いが伝わり、2010（H22）年春に念願だった最後の保育室が誕生することになりました。



新しい保育室では、それまでの障子越しの小さめの窓とは違い、大きな窓から明るい光が入ります。中でも、子ども用のトイレは本当に便利で、すぐに連れて行けることはもちろんのこと、お友達がしている姿も見ることができて、刺激を受けています。こんなところも子どもの自立につながっているのだと思います。

保育人数は、定員12人から15人に増え、保育開始の月齢も10か月から6か月に引き下げられ、やっと他館と足並みをそろえることができました。子育て中のお母さんにとっては、この4か月はとても大きいと思います。1歳になると、行動範囲も広がり、お友達もできてきますが、歩き出す前のこの時期は、初めての子育てをしているお母さんにとって、不安でいっぱいな時期なのではないでしょうか。この時期に、講座を受けられることは、とても良いことだと思います。これも、代々のお母さんたちが中心になって、保育室設立を要望してきてくれた成果でもあります。

6か月からの子どもを預かれるようになり、保育年齢の幅が広がりました。ふだん赤ちゃんと接することがない子どもも、とても興味を持ち、お世話をしてあげる場面も見られ、小さい子に優しくする気持ちが自然と芽生えています。また、小さい子は、大きいお兄さん、お姉さんの様子を見てまねをすることで、いろいろなことを吸収していています。

しかし、利点ばかりではありません。新しい保育室は、専用保育室ではなく、図書館の「お話室」と兼用なため、保育が終了した際は、今までの和室同様、すべての物を収納して何も無い状態にしないとイケないのです。当然、大型遊具も置けませんしベビーベッドも置けません。壁にかわいい絵を張ったり、装飾することもできません。



いろいろと制約があることは確かです。しかし、この新しい保育室は、子どもたちが社会性を身につけ、幅広い年代のお友達とかかわる力をつけていく大切な場所であり、保育者として、これからもそのお手伝いをしていきたいと思ひます。

## 地域の暮らしをより良いものに（1）

大澤ゆかり（本多公民館学習者）

こんにちは。大澤ゆかりと申します。私は本多公民館で「クローバー」というグループに所属しています。今高1の長女が1歳9か月の時に公民館主催の「母と子の教室」に参加しました。教室メンバーが自主グループ「Beans」になり、それから1年先輩グループの「けやきネット」と合併して今の「クローバー」になっています。

「教室」の時に10年後の自分の姿を書くという作文の宿題がありました。その時に確か「子どもを4人産んで保育室にお世話になり、その後地域の活動をする」というようなことを書いたと思います。その時は「ちょっと多めに4人って書こう、仕事をするのも大変そうだし地域貢献とか書くとカッコいいからそうしちゃおう」とごく軽い気持ちで書いたことでした。まさか本当に4人子どもを産んで、保育室に入れていただき、活動を続けて地域で働くことになり、しかもここでお話をさせていただくことになるなんて予想もできませんでした。



公民館活動を始めたのは、初めての子どもを授かって「いいお母さんになろう、いい子になってほしい」と頑張っていたころです。でも、なかなか子どもは私の思った通りにならない。子どもらしく伸び伸び遊んでほしいのに、私にべったりくっついて離れない子どもに疲れて、2時間でも離れたいという気持ちが強くなっていました。



そんな中で参加した教室、自主グループ。教室で2時間自分の体と頭を自分だけで使えることがどれだけすばらしいことかと思いました。保育室はすごい、公民館活動は面白いと始めた自主グループでは、小さい子を抱えての活動の難しさをいろいろ感じさせられました。大変な時期もたくさんありました。どしゃ降りのなか、上の子を幼稚園に送ってきたけれどびしょぬれで、機嫌が悪い真ん中の子をなだめて、大泣きしている赤ん坊を背負って児童館での「母の会」に行ったり、睡眠不足で1分でも寝たいのに感想なんて書けないで困ったり。今新しいグループの方たちが感じていらっしゃるであろう「大変」なことが昨日のここのように思い出されます。でも今思うと「大変」なことは自分が力をつけていく1つのステップだったように感じています。そして面倒ではあったけれど、その場に行ったからたくさんの方と知り合えたのだと思います。

振り返ってみると、今自分のかかわっていることは、ほとんどみんな公民館の仲間が引き合わせてくれたものでした。生協の活動、自主グループ、今の仕事。「ご縁」という言葉がありますが、本当にそうだと思います。ここで出会ったことで新しい人とのつながりをいただくことができました。

グループのメンバーの言った言葉で非常に印象的な言葉があります。「自分の子どもを幸せにしたいなら、周りの子どもを幸せにすればいい」というものです。大人も子どももみんな同じですね。「人は人とのかかわりの中で育つ」という保育室の保育目標は、子どもだけじゃなくて学習している親にも向けた言葉なんだと今は思っています。やっぱり人と人が出会って顔を合わせて話していくのは大事なことだとやっと分かってきました。



私は親が頑張れば子どもは育っていくと思っていました。でも子どもが親の手もとにいて全部を世話して把握できるのは本当に短い時間でした。一番下の子どもが小学校にあがり、仕事を始めた今では、1日のなかで子どもと接するのは朝と夜だけになりました。夜、今日のことを話していると子どもから「今日通学路でおばちゃん（保育者）に会った。『こんにちはー』って言ったよ」なんて話を聞いたり、公民館活動で知り合ったお母さんから「昨日学校で、大澤さんのお姉ちゃんがうちの子たちのクラスを世話しに来てくれたのよ」と声をかけてもらったりします。公民館活動、保育室活動を通じて知り合った地域の方たちが、今子どもたちを見守って、支えてくださっていてとても心強い気持ちです。



私は15年以上の専業主婦を卒業して去年から働いています。自主グループで遊んでいたプレイステーションでプレイリーダーとして、駅前の「親子ひろば」で子育てサポーターとして。今まで助けてもらって嬉しかった気持ちを、これから子育てしていくママたちや、これから大きくなっていく子どもたちに地域の仲間として少しでも届けていけるといいなと思っています。

最後に、今私の話の間に映していただけっていた映像ですが、一番下の子の卒室の写真が少しと、あとはプレイステーションのものばかりしかありませんでした。しかも割と最近のものばかり。保育室の活動や自主保育グループですてきな場面はたくさん覚えているのですが、写真はありません。今のように手軽に写真が撮れる携帯がなかったこともあるのですが、当時はカメラを取り出してかばんに入れ、それを出して写真を撮る、それをきちんとかばんにしまう、そんな簡単なことすらやろうと思う心の余裕がありませんでした。そんな子育て生活のなか、公民館の保育者の方たちの言葉にどれだけ励まされたか。グループのみんなと悩みを分かち合い話し合っ心に元気をもらえたか。

みなさん、ありがとうございます。わたしもこれから頑張っていきたいと思います。



## 地域の暮らしをより良いものに（2）

青木淳子（元光公民館学習者）

こんにちは、光公民館で学習をしていました元「チューリップ」の青木です。よろしくお願ひします。

現在高校2年生になる息子が2歳のときに公民館報の「母と子の教室」のお知らせを見て申し込んだのが保育室活動にかかわる始まりでした。

そして皆さんと同じように1年を経て自主グループになり、何をするか？ グループで考えました。「絵本のことをやろう」と自然に始まり、2回の講師派遣事業で絵本の読み聞かせを通して子育てを考える講演会を行いました。次いで、「図書館で小さい子どもたちに読みきかせをしよう、図書館と交渉しよう」など、メンバーそれぞれのやれる範囲で活動をすることができました。こういった活動は、1人ではとてもできそうにないことでもグループで支えあえば結構いろいろなことができるんだ、と自信を持つことができました。それぞれのメンバーの子どもたちも大きくなり、学齢が上がるにつれて活動の範囲もPTAなどに広がりました。



PTA活動でも話していたことですが、先ほど大澤さんもお話されていたとおり、「自分の子はもちろんかわいい、幸せになってほしい、そうなるには自分の子だけでなく子どもたちみんなが幸せになれる環境がなくては自分の子も幸せにはなれないのではないの？ そのためには地域、社会のことを知り、親として今社会を支えている大人の責任として、子どもたちを取り巻く環境のことを考え、行動していく必要があるのでは？」と感じました。

今、後ろに映っているのは、二小のPTA活動で始めた「わになってあそぼう」という特別委員会でやっている行事です。この特別委員会は2002（H14）年に「週休2日制に伴う子どもたちの休日の遊び場について学校と地域と連携を深めながら考える」というのが、立ちあげたきっかけです。

1枚目はひかり児童館の「わいわいまつり」に参加してのスライム作り。こちらは「夜の学校探検」で、先生方にも協力していただいて、けっこう大きな行事になっています。とても楽しいので、子どもたちが卒業して地域の人になってもお手伝いで参加させてもらっています。

こういった活動のベースになっているのが、公民館の保育室活動かなと思います。最初のころはよく分からなかった「五館の会」そして「市長・教育長面談」も、子どもたち



に何が必要なのかを、親だけでなく、地域でも行政でも一緒に考えていく必要があるのだと学びました。もしかすると今「大変だなー」と思っているお母さん方もいるかもしれませんが、それが後々のエネルギーにもなりますのでどうか頑張って活動してほしいと思います。

そして今、予算削減等で公民館もいろいろ言われていますが、子育て中のお母さんをはじめ、地域の人が地域で活躍し、地域が活性化するよう、公民館は今以上に大切な軸であり続けてほしいと感じています。

## 仲間と学び、職業へ

岡本正子（元本多公民館学習者）

保育室活動 40 周年、おめでとうございます。

公民館と保育室にお世話になった者として、皆さまのご努力で、保育室活動が長く続いていることに、心からお礼申し上げます。1985 (S60) 年から 6 年間、3 人の子どもが保育室でお世話になりました。27 年前になります。最初は、子どもから離れて活動できることが、何よりの喜びでした。結婚してからの出産・育児期は、これまでの気ままな暮らしから一変して、幸せではあるけれど閉塞感に悩まされる時期でもありました。

活動する場をいただき、親も子どもも共に育ち、充実した時間を過ごすことができました。その意義を保育室活動を通し、公民館職員、保育者の方々、そして友人から学びました。

公民館は、私にとって、まさに学校でした。自分が何をしたいと思っているのか、将来はどうすべきか、子どもを持って考えるきっかけをもらいました。

また、子育てをして、地域のつながりの大事さにも気がつきました。最も関心の強かった「食」と、末っ子を自宅出産した幸せ、公民館活動でより強くなった「地域」への思い、それらが核となり、栄養士の道を目指すことになりました。そして今、管理栄養士として助産院と障害者施設で働きながら、お声をかけていただければ、講師の仕事もつとめています。とても嬉しいのは、公民館で学習活動する若いお母さん方の講座に出向く機会が多いことです。ここでは、講師としてだけでなく、公民館・保育室活動の先輩・仲間としての共感があります。

3 月 11 日の大震災、福島原発事故後、若い



お母さん方の子育て状況は厳しさを増しました。未来を担う子どもを産み育てる女性の役割は、これまで以上に大きなものとなるでしょう。若い母親の地域での学びの第一歩となる公民館と保育室の社会教育事業が発展・循環し、受け継がれていくことに、ただ個人の立場ということだけでなく、社会の一員として大きな期待を持っています。

## 親から保育者へ

### 細谷育子（光公民館保育者・元学習者）

1999（H11）年度の講座に参加して、その後自主グループのマーブルを皆で立ちあげ、今でも細々と活動を続けております。「親から保育者へ」というお題をいただいておりますので、ひたすら自分のことをお話していきたいと思っております。

子どもを預ける側から預かる側になってみて、まず驚いたのは、おばちゃんたちが「子どもにとって」という視点で、どれだけ丁寧に保育をし、その内容をち密に話し合ってくれていたかということでした。2時間をただ「安全に預かる」というだけでなく、子どもから見えてくるさまざまな問題点を話し合い、保育が現状で適切なのか、もっと改善できるのではないかと、その問題点についてどう思うのかなど、公民館の職員や講師と一緒に考え合い、講座のお母さんたちの学習の進行に沿って保育を組み立てていくという、もはや臨時職員の仕事という枠を超えた、情熱的な取り組みでした。

私はそんな大先輩方とかかわらせていただきながら、託児ではなくて、メンバーが同じ子ども集団での継続保育の重要性や、一人ひとりの子どもたちに向けるまなざしを学ばせていただきました。そうする中で思うこと、見えてくることはたくさんあり、それらは公民館運営審議会委員としての活動に移行し、反映されたと思っております。



保育室の中だけの活動から、光公民館の中の保育グループ代表としての立場の違いを実感するとともに、保育以外のほかのグループの方々を知り、地域の方々がどんな思いで公民館の運営に携わっておられるのか、また、保育を行って子どもがいる母親の学習権の保障をするために、どれだけの公費が動いていて、市民の皆さんの支えを受けているのかということなど、目から鱗の学習を公運審として重ねることができました。両者とも子どもを預けるためだけに、保育付き講座に参加した私の価値観や考え方、生き方さえも見直すチャンスくれたものでした。

私の経験を通しての学習は、保育室グループの皆さんにも、わずかばかりではありますが伝達できていると思っております。

今は、保育と、介護予防のお仕事と、健康づくりのための体操の指導者と3足のわらじを履いての毎日です。3足履いてはいるけれど、私の中ではどれもがつながっていて、それぞれの経験をそれぞれに生かしながら日々を送ることがとてもラッキーだし、幸せです。保育者集団で養ってきた子どもに向けるまなざしは、すべてのこと



に応用でき、今さらながら先輩方の偉大さや、ともに切磋琢磨した仲間の存在のありがたさを感じます。

「人間は年齢ではないんだ、子どもも大人も高齢者も同じ。皆尊敬されるべき存在なんだ」ということに気づくことができたのは、公民館で学んだ力を最大限に生かした結果だと思います。相手を尊重して生活することの大切さ。分かっているようで忘れてしまい、自分が一番！ と思って生活してきたことがどれだけ恥ずかしいことか。たくさんの人と話し合い、皆意見が違ってもお互いを尊重しながら1つの形にまとめあげる……。身近なところでは、家族ともいろいろありましたが、お陰さまで今はとても幸せに円満に生活できるようになりました。



大人になったら、生き方を教えてもらえるチャンスはすごく少ない。時には仕事を通じて学べることもあるかもしれませんが、でも主婦でおうちにいらっしゃる方々は皆無に等しい。生き方を教えてもらうのではなく、公民館にきて仲間と向き合い考え合って、徐々に自分と向き合い、子どもと向き合い、仲間同士お互いに成長していく。

今、保育をしながら子どもたちの成長に目を見張る時、その後ろにあるお母さんたちの努力や、グループのメンバーの応援を想像します。そんな時、公民館や公民館保育室の重要性をひしひしと重く思う今日このごろです。

## 預けて学ぶ立場から

百瀬裕美（本多公民館学習者）

私は9年前、知り合いがまったくいない中、国分寺市に引っ越してまいりました。現在9歳となる長男を筆頭に4人の子どもたちを保育室に預け、「まんぐろ〜ぶ」というグループで9年間活動を続けております。

これからお見せする写真は本多公民館で活動している母たちの様子です。救命救急、モンテッソーリ、栄養士さんをお呼んでの料理講習、そして話し合い。日々の活動以外にも、父親たちも巻き込んで交流を深めています。「まんぐろ〜ぶ」では毎年、夏のお泊まり会として総勢35人くらいで古民家に合宿します。父親たちも毎年、顔を合わせることで、仕事とは離れた父親同士の交流を楽しんでいるようです。下は3歳、上は13歳までの子どもたちは学校、幼稚園などは違っても、幼なじみのような存在となっています。少子化社会



といわれますが、上の子が下の子の面倒をみることに目覚め、子どもたち自身で遊びを考え出し、大勢で生き生きと遊んでいます。親以外の大人たちとも交流が生まれ、今まで親たちがやっていた仕事をやってみようとする力も育まれているように思います。

私の9年間の子育ては、保育室とともにあったといっても過言ではありません。私を含め、多くの母親たちは、初めての育児に向き合った時、孤独や不安からくる危機感により、他者とのつながりを求めていくことが多いようです。しかし、新しい環境にうまくなじめず、さらに孤独感を強めてしまうこともあるようです。最近、「親子ひろば」がとても盛況だと聞きます。スタッフがいることにより、母親同士がのんびりと話す機会を与えられ、子ども同士のトラブルにも介入してもらえるので、母親たちは気まづくならずすみずみです。一日中、大人と会話をしないという閉塞的育児からしばし解放される、とても安楽な環境だと思います。しかし、毎回参加する人は異なりますし、母親同士が深い交流にまでは至らないのも事実かと思えます。

一方、公民館保育室に子どもを預けて活動する場合との大きな違いは何でしょうか？ きっかけは似たようなものかもしれません。2時間でもいいから子どもを預けて解放されたい、他者とのつながりがほしいなどさまざまでしょう。しかし講師、職員、保育者など先輩グループの影響を受けて、いつしか、多くのことを学び始めていることに気づくのです。その内容は決して安易で楽しいものばかりではありません。「自分自身と向き合う場所」であり、1人の人間として、コミュニケーションの重要性を学ぶ場所となっています。それは時にとても大きなエネルギーを要し、毎日育児に追われる母にとっては苦しく、辛くなることもあると思います。母親として、妻として、そして1人の人間として自分自身がいか生きていくべきかということを考える場になり、主体的に学ぶ機会を得ているのだと思います。大げさになるかもしれませんが、生きる力を身につける場所だと信じています。

これからの人生、思いもよらぬことが起きても、そのことから逃げずに、そして自分自身を知り、成長させていくためには本音で話せる場所と仲間が必要なのです。時には意見の異なる者同士でも、互いを尊重し、相互理解を深め、生きる道を探す。そうして自分自身が成長、成熟していけるのではないかと思います。そしてこの学びを継続し、自分の中で完結するのではなく、関係する周囲の人にも少なからず影響を及ぼしていくのではないかと思います。

何か特別なことをするのではなく、自分自身が精神的に豊かになることで周りを豊かにし、地域へ、そして未来の子どもたちへ還元していくことができるのだと思います。

この活動を公費で支えてくれている国分寺市が、これからも市民同士のつながりを深め、ますます豊かなまちになっていくことを、そして、若い母親たちが成長し、学び続けられるように、これからも保育室活動が受け継がれていくことを心から願います。



## 7. 意見交換



保育室に預けて活動してきました。その後、保育者として活動を続けてきましたが、定年になって今はやめております。今は主任児童委員として子どもの問題にかかわることが多いですが、人間関係の希薄さということが基になっていることがたくさんあることを感じています。今日も一人ひとりのすてきなお話をたくさん聞かせていただきました。近藤さんのお話の中に、人は人とのかかわりの中で育つというお話がありました。私はそういったことは公民館活動の中で学ばせていただいたと思っています。また時代も大きく変わっていく中で今までのことを「よかったわ」と言うだけではなくて、これからのことを本当に真剣に考えていかななくてはならない時なのではないかと思っています。ぜひ今日のことを参考にしながら、これからどういう活動を続けていくか真剣に考えていってほしいと思います。



去年「幼い子のいる親のための講座」を受け、自主グループになって約1年たちます。まだ分からないことばかりで、今日皆さまのお話を聞かせていただいてこういう歴史があったんだなあということを改めて実感し、私たちが学ばせてもらっている今もこうして作られてきたんだと思い、ありがたいなと思いました。今日来られなかったメンバーにも伝えて、私たちの力にしていきたいと思います。



去年子どもは卒室して、保育室活動はしていませんが、グループは頑張っていて続いています。やめようかと思ったこともありましたが、お話のように、今の私たちを支えてくれたのが保育室でした。保育室活動が自分たちの原点だったと思っています。続けられる限りは保育室とのかかわりを何らかの形で持ちながら続けていけたらいいなと思っています。



私自身はたくさんの人たちとかかわったことで、けやきスポーツセンターで行っている「親子ひろば」やボランティア活動にかかわっています。おもちゃコンサルタントの資格を取ろうと思って、木のおもちゃ作りなどに力を入れています。保育室とは違ったところですが興味のある方は遊びにきてください。保育室が続いていくことを祈って私自身も学習を続けていきたいと思っています。



## 8. 実行委員長あいさつ

実行委員長 蓮實麗子

本多公民館から始まり、恋ヶ窪、光、もとまち、並木の五館、それぞれの保育室で育ち合いました。子どもを預けた親、保育者、職員の三者が、『人は人とのかかわりの中で育つ』という理念を通して、共に育ち合った40年です。今日は、ホールいっぱいの参加者に、どれほど多くの人がかかわってきたらと思うと思いました。

私もかつて、恋ヶ窪公民館の保育室に、そして住まい近くの本多公民館に3人の子どもを預けました。そのころの私を知っている人は、まさかこんな所であいさつをしている姿など、想像もできなかつたと思います。人はいつでも変わることができます。1人ではなかなか難しいのですが、支え合う仲間がいて、見守ってくれる職員や保育者や家族の中で、成長することができます。公民館の継続した事業の中で、お互いに信頼し合いながら、安心して活動ができたのだと思います。時間が経って特に大事だと思うことです。

その後、本多公民館の保育者として活動を続けました。生き生きと自分の目標を持って活動をする母親の姿を見てきました。保育室の仲間の中で子どもが変わるのを見て、母の行動も我が子からほかの子へと視野が広がります。そして、グループの仲間や家族へのかかわり方も変化します。変わっていく自分自身が心地よく感じられるから、活動が続けられるのだと思います。ゆっくりと気持ちを熟成させ、行動を変えていくには、年月が必要なのです。「公費で子どもを見てもらっているのだから、社会に還元していかなければいけません」。よく言われた言葉です。「脅迫されているみたい」。慣れないうちはそう言っていました。でも実際に、公民館の保育室事業がなければ、小さい子を持つ親は何もできません。社会と向き合い、自分の生活を考えるととても良い機会でした。理想と現実のギャップを感じながら、親として、妻として、女性として、自分の住んでいる環境をより良いものにしたい。私にそんな気持ちが根付いたのはこのころからです。保育者を退職後は民生・児童委員をしています。

いつも予算の時期になると、保育室の存在は危なっかしくなります。保育者賃金の減額ということは、保育回数が減るということです。その都度、「私たちにとって、保育室は学びの場で、大切な所なのです」と、大事だと思う人が声を出し、周りを説得してきました。仲間の中でも、何で保育が必要なのかを確かめ合いました。何か問題が起きた時に、自分たちで解決していく力は、日々の生活の中で大きな力となっています。今日の発表を聞いて、さまざまな世代の方が地域の担い手になっていて、国分寺市の力になっているのを感じました。1人の小さなかかわりが、まわりの意識を変え、地域社会を変えていく力になるということを実感しました。まさに地域の大きな財産です。

まとめは、参加者の一人ひとりの心の中にあると思います。私たちは東日本大震災に遭い、公民館のようなこつこつと人と人を紡ぐ活動が、いかに大事なことを知りました。今日の出会いが、また新しい始まりになれば幸いです。これからも地域のつながりを大切に、『人は人とのかかわりの中で育つ』を人生の指針として、心豊かに暮らしたいと思います。公民館保育室の活動が、末永く続くことを願って。

## II

# 40周年記念事業に参加して

## 1. 来賓の感想

### すばらしい発言に感謝

市議会議員 釜我健二

“保育室40年のあゆみ～公民館保育室活動40周年記念事業”の集いは、私にとって、大変懐かしく感じるとともに、これまでかかわっていただいた市民・職員の皆さん方のご苦勞を振り返るという意味で、とても貴重なものでありました。

特に、私がこの“集い”で最も感動し、嬉しく感じたのは、公民館保育室を活用しながら、学び育ってきた若いお母さんたちのすばらしい発言の数々でした。

「公民館でみんなと学ぶ中で、自分は生き抜く力を身につけることができた」「公民館での学習の中から、市民として主体的に生きることを学んだ」との発言は、公民館活動の、そして社会教育の本質であると思います。微力ではありますが、議会という場から、公民館、社会教育に取り組んできた1人として、本当にうれしい限りです。

今、公民館については、さまざまな動きもありますが、私は、市民が「自立した市民」として、「主体的に生きる力」を養う場としての公民館を、しっかり守り育てていきたいと思えます。

### 「子育ての社会化」の先駆け、40年の歩み

市議会議員 皆川りうこ

公民館保育室活動40周年おめでとうございます。

記念事業での皆さんからのお話は、熱い思いが込められ、強いメッセージとして心に伝わるものばかりでした。そして、保育室活動を通して福祉分野、教育面など、地域や社会に貢献する人材を多く輩出してきたことを再認識しました。〇〇ちゃんの母でもなく、誰の奥さん、嫁でもない、1人の自立した「私」が選択してきた歩みでもあると思えました。

社会の中で孤立しない子育てをするには、時間、空間、そして仲間のいる環境、社会全体で子育てをしていく視点が必要であると思います。その三要素を備えて、40年前にスタートしてきたのが、この保育室活動ではないのでしょうか。これは、定着して久しい「子育ての社会化」の先駆け事業といえ、その存在意義は大きいものがあります。

公民館保育室は、時代が求めるニーズにも応え、さまざまな課題を解決してきた歴史があると思います。これまでを大切に、今後、50年、60年…と継続、発展していくことを祈念いたします。

## 子どもと共に育ちながら地域とつながる

市議会議員 岩永康代

公民館保育室活動40周年おめでとうございます。

私自身、本多公民館で保育室活動に参加した当事者として、これまで40年間にわたり先輩方が築きあげてきた保育室活動の歩みを知ることができました。

出産後は「子どもがいるから」とあきらめることも多かった日々の生活の中で、「子どもがいるから」こそ、子育てを通して学び合い、子どもと共に育ちながら地域とつながることができた貴重な活動であったと思っています。また、グループ活動ではグループを越えて、保育者や先輩グループの方々から、子育てや人生の先輩として多くのことを教えていただきました。「人は人とのかかわりの中で育つ」という保育目標は、子どものみならず、私たち母親のグループ活動の指針でもありました。

時代の変化と共に世の中の状況・価値観が変わり、想定しなかったようなさまざまな課題も出てくると思いますが、今後も保育室活動を通して学んだことを土台にして、共に地域の中で活動を進めていきましょう！

## 市民同士のつながりをつくる場、社会教育のひとつとして

市議会議員 中山 郷

11月20日に本多公民館で行われた公民館保育室活動40周年記念事業「保育室40年のあゆみ」に参加しました。

保育室活動をまったく知らなかった私はとても驚きました。「国分寺市に引っ越したばかりで子育てに孤独感を感じていたが、保育室活動に参加するようになり、子育てについての学習や悩み相談など、仲間もできて助かりました」「保育室の仲間と自主グループをつくり、大人になってからも学習できる場所になっている」などの、市民同士のつながりをつくる場、社会教育の場として公民館が果たしている役割を実感しました。

経済・社会状況の悪化で孤独感や子育てに悩んでいる人が増えていると私は思います。保育室活動の発展や、その後の自主グループでの活動など、公民館の果たす役割をさらに発展させることが求められています。

現在検討されている公民館の有料化。有料化が公民館の発展につながるとは私は思えません。

## 館の運営、求める市民、支える職員

社会教育委員 岡本公子

全国的に見ても例が少ない公民館における保育室とママたちの学習活動は、諸先輩や公民館にかかわった女性市職員の頑張りや、打てば響く市民の学習活動のたまもの

ですね。館の運営（事業と財務）、求める市民、支える職員（保育者も含め）の三者そろふことが大変なことなのでしょう。私が並木公民館建設検討委員会にかかわった当時、保育室設置は当然のことで、しかも日当たりの良い落ち着いた場所に満場一致で決まりました。本多・光・もとまちと頑張ってくださいましたお陰ですね。長い歴史を大切に、そして学習と自主活動への継続を目指し、女性の社会参加に寄与する公民館保育室運営と、女性講座を応援し、さらなる発展に期待します。

## 公民館の重みと社会教育の礎

社会教育委員 石田克枝

本多公民館ホールは、さながら中学か高校の同窓会の集まりのような賑わいだった。「元気だった？ 今何してるの？」

という声があちこちで聞かれ、公民館保育室にかかわりを持った母親たちの明るい声が飛び交っていて、40年という歳月の流れを感じさせた。

今では、公民館保育室は当たり前のように設置されているが、こうなるまでの先輩たちのたゆまぬ努力、行政への働きかけ、「学びたいけど小さい子どもがいるから」と二の足を踏んでいた母親たちを支え続けた公民館の職員と利用者の運動があって、現在の五館の保育室が実現した。これには、国分寺市が誇る、公民館の重みと社会教育の礎を実感した。

昨今、地域教育の重要性が叫ばれているが、国分寺市では既に40年前に、市民と職員の協力のもとに、大人も子どもも共に育ち成長する社会教育の実践が行われていたことを確信し、感動した。

## 「投資」としての保育室の意義

本多公民館運営審議会委員 田中雅文

現役の学習者（母親）の発表に感動しました。母親たちは保育室に支えられて学習活動を継続し、その成果がPTA活動に生かされ、さらに公益性の高い市民活動へと発展する。次々と登壇する母親たちが、そのような過程をみごとに表現してくれました。地域における青少年育成や安全確保を担ってくれるのは、地域に密着して生活する母親たちです。しかし、母親なら誰でもそうなるわけではなく、上記のような成長過程をたどってこそ現実のものとなります。つまり、保育室への「投資」が母親の成長を促し、結果として地域の安全と青少年育成という大きな「収益」を生んでいるのです。主婦の立場ではわずかな経費でも負担が厳しいことを考えると、保育室の無料原則は重要です。

上記のように、保育室は公民館の公共性を代表するものです。このすばらしい仕組みを後の世代に絶やさず残せるよう、国分寺市が賢明な自治体であってほしいと切に願います。

## 将来の国分寺市を支える人材を育成するためにも

並木公民館運営審議会委員 光門富士実

第三子の入園と同時に国分寺市へ転入してきた私にとって、「保育室」とは未知のものでした。

時々、ママ友達が、他校のお母さんを「その人、保育室で一緒だから知ってる」「○○さんとは並木公民館で一緒だったから」と言うのを耳にするたびに「保育室って何?」「公民館で一緒って何?」と不思議に思っていました。後日、保育室の話を教えてもらい、うらやましく思ったものでした。

40周年記念で、さまざまな年代の方の発表を聞き、国分寺市は決して無駄なお金は使ってなかった! と思いました。

保育室で子どもを見てもらっている間に、さまざまな学習をし、仲間を作り、講座終了後もグループ活動を続けたお母さんたちはそれぞれに活動を広げていました。そして、現在「おばちゃん」として活動しているお母さんの多いこと、驚きました。

国分寺市の経済状況が苦しいことは知っています。でも、公民館という誰もが平等に無料で学べる場で、お母さんが孤独にならないために、社会に目を向けるためにも、将来の国分寺市を支える人材を育成するためにも「保育室」活動が続いていくことを願っています。

## 地域社会の担い手を育んできた保育室事業

並木公民館運営審議会委員 西原和子

この日、会場を埋めた皆さんの笑顔の中に、40年もの長きにわたって引き継いでこられた事業への自負を感じました。心から敬意を表したいと思います。

私の家族が国分寺市に転入したのは長男が4歳、長女2歳の時で、幼稚園の母の会を通して地域の輪に入った私には保育室との接点がありませんでした。今回の集いで現場の生の声をお聴きし、核家族で孤独に子どもと向き合うお母さんにとって「幼い子のいる親のための教室」と保育室が大きな支えとなってきたことが良くわかりました。そして何より驚いたことは、司会者をはじめ登壇してお話しくださる方の半数以上が、PTA活動で親交のある方々だったことです。皆さんが教室卒業後も自主グループ活動で学びの場を広げ、PTA活動やさまざまなボランティア活動を通して地域を支え続けてくださり、また保育者として後輩である学習者を支えておられることは、本当に素晴らしい! の一言です。

公民館の保育室事業が子育て・生涯学習支援の1つであること、地域社会の担い手を育んできたことを知り、長い歩みの中で広い裾野を持っていることを実感した一日でした。



## 2. 五館の関係者から

# 本多公民館

元保育者 松原和子

保育室の始まりは、1971（S46）年のこと。公会堂の舞台の控室に我が家の布団、おもちゃを持ち込んで保育が始まった。子ども親も保育者も、仲間の中で育った。

本多公民館の改築について、公民館運営審議会委員のメンバーとして、利用者のアンケートに沿った答申を出した。高橋雪子館長は利用者の声を生かし、本多公民館が出来上がった。その際、ホールのいすは、固定いすと要望があったが、ますます増える活動に適したものにし、床も平らにして、多目的に使えるホールになった。

社会教育の拠点として、知識を得るだけでなく、特に教育講座の持田栄一氏、近代史の川村善二郎氏から学んだことは、自分に引きつけ、生き方を問い直す学習であったことは間違いない。自立した市民の1人として、国分寺の社会教育で育ったものとしてこれからも一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。



元保育者 徳田康子

「保育室に預けていた娘がアラフォーになりました」というお母さんたちの言葉に「えっ」と驚き、改めて40周年の歴史を実感しました。私はそのアラフォーの子どもを預かった保育者の1人です。

子育て中のお母さんが初めて子どもと離れて1人の人間として仲間と学習した公民館、その公民館に設置された保育室で子どもは初めて親と離れて1人の人間として、子ども仲間と保育室のおばちゃんと過ごした場所、その保育室を子どもは仲間と会える楽しい場になるようにと、親、保育者、公民館の職員三者はどうすれば楽しい場ができるか三者がそれぞれの立場で考え合ってきました。お母さんたちのアラフォーの言葉の中にその体験を感じ、また1人のお母さんは「保育室に子どもを預けて学習した仲間が子どもよりも“かすがい”だ」と仲間とつながっている安心感を話されました。今現在保育室を利用している若いお母さんも「3人子どもがいるがもうすぐ4人目の子どもが生まれる、これもひとえに夫に支えられ保育室の仲間を支えられて子育てができるから」と発言された。保育室の目標であった「人は人とのかかわりの中で育つ」ということは、仲間がいて支え合って生きていけるということかなと思いました。

元保育者 中川まり子

公民館保育室 40 周年記念の集いに参加して、最初は各館に分かれて昼食をとりながらの交流会で、懐かしい顔に会えた同窓会のような会でした。また全体会は大勢の参加者で、さすが 40 年の月日を感じました。特に保育室が出来るまでの歩みを映像で見て、元館長高橋雪子さんのお話を伺い、あのころの旧本多公民館和室、そしてプレハブ、児童館での託児を思い出しました。

これからも子どもを預けることを「大人の学習の場として」公民館保育室活動は、若い母親たちのためにいつまでも継続してほしいと願っております。最後にこの会に参加できたことを感謝し、実行委員の皆さんにお礼申し上げます。

元保育者 佐古玲子

本多公民館保育室に 3 歳の息子を預け、1 人公民館の一室に向かい、そこで~ちゃんのママでもなく、どこそこの奥さんでもなく、私、という 1 人の人間として仲間と同等の立場で自由にものが言える、そういう場に居合わせた時の新鮮な解き放たれた思いを今も忘れることができません。それは私が社会というものに目を向けた瞬間だったかもしれません。35 年も前のことです。

その時から私の公民館保育室活動が始まりました。保育者としても 10 年間やりました。今は近くのもとまち公民館を時々利用させてもらう程度ですが、保育室活動で培ったものが今も私の生きていく上での大きな指針になっているのは確かです。

今回、40 周年ということでこの記念事業に参加させてもらい、今も脈々と続けられるお母さんたちのエネルギーあふれる活動を知ることができてとても嬉しかったです。

元保育者 深澤靖子

交流会で私は、活動を通して獲得し、離れてまさに 20 年の今も心に深くすみ着いている言葉にとらわれておりました。「子どもにとって」という視点。総じて、相手にとってと置き換えられるでしょう。ここで肝心なのは、相手側とぐしゃっと一緒たになるのではなく、自分はいくまで自立した 1 人としてこちら側に居る、ということ。「受容」。是非は問わず先ずは丸ごと受け入れる。朝入室時の像とともに、また今は抽象化されて。

全体会では、未体験の方たちが、若い母親たちの熱の入った体験談をどう受け止めてくださったのかを伺いたかった。預け、預かり、丸ごと体験者である者としてあえて申しあげたい。保育室体験は言葉で伝えるのは至難の業ですから。体験者の自画自讃の場に終わったのでなければよいが、と危ぐいたします。

元保育者 土屋紘子

久しぶりに公民館保育室にかかわっていたころの方々に懐かしくお会いしました。皆、公民館保育室で保育することで学んだことが原点となり、その後の人生を送っておられることを聞き、感激しました。まさに、私自身もそうだからです。若い方々も現在公民館に何らかのかかわりを持って生き生きとしておられる。

社会教育の場である公民館、そこに保育室がある意味。大人も子どもも、そこで学び、そのことを継続することの大切さを改めて感じました。公民館で保育することで学んだ経験は、今、宝物だと思っています。

元保育者 宮寺政美

私が子育てをしていたのは30年も前になりますが、そのころ、閉鎖的な家庭環境の中、1人で子育てを悩んでいました。また、単調な毎日にももの足りなさを感じていた、そんな時に会ったのが、公民館保育室の活動でした。お互い子育ての悩みを共有できるメンバーは、地域で子育てをしていく上で、大切な仲間となりました。単なるおしゃべり仲間とは違う、さまざまな価値観を持ったメンバーと意見交換することができ、ますます私は公民館保育室活動にのめり込みました。当時、所属していたグループの学習の中で、自立した女性の生き方に私は興味を持ちました。永畑道子著の「野の女」、「炎の女」に刺激を受け、次々と著名な女性の生き方について書かれている本を読みあさりました。これからの自分の生き方を模索していた私にとって、結果的に現在の私を作り出したと言っても過言ではありません。

一方、保育室で娘も地域のお友だちと楽しい時を経て、保育室を卒業しました。その後、私は若いお母さま方を支える側の保育者となりましたが、残念ながら病気治療のため、6年間の保育室活動を終えました。現在は書家となり、また地域で書道教室の教師となり、今もなお、保育室活動で学んだことを生かし、伝統ある書道教室に携わっています。

自分のために学習できる場、子どもを預けることを通して学べる場、また、子どもも仲間のつながりの中で成長できる場、これほどまでに保育室活動で学習した個々に大きな影響を与え続けている公民館保育室活動を、これからも継続させ、若いお母さま方を育てていってほしいと思います。

元保育者 今吉安代

11月20日は、40周年の集いの前に、所属していた公民館ごとにお昼を食べながらの親睦会がありました。本多グループの部屋に入ると、あのあこがれていた高橋館長さんもみえていて、懐かしくて嬉しくて、いっぺんに昔に返ったような気分になりました。

そして、息子がお世話になった先輩保育者の方たちや、一緒に保育をした仲間、現在保育をしている後輩の保育者や学習中のお母さんにも会って、楽しいひと時を過ごすことができました。

小さい子どもがいても何かやりたいという気持ちをかなえてくれて、仲間とのかかわりの中で、親子ともども育つ公民館保育室はずっと続いていってほしい。予算面で難しい問題が浮上してきているかもしれませんが、未来の国分寺のために頑張ってもらいたいと思います。

保育者 宮本由起子

保育室活動40周年おめでとうございます。こんなにも長い間保育室がずっと続いてきたのは、たくさんの方がここでの活動をとても大切にされてきたからだと思います。今回発表された方々は、保育室活動を通じて自分がこれからどうしていきたいのかをしっかりと見つけ、現在は生き生きと仕事をされたり、地域の活動に積極的に参加している姿がとても印象に残りました。私もかつて我が子を保育室に預けていました。そこで学んだことは現在でも私の心の支えとなっています。いつまでもこの活動が続くよう心から願ってやみません。

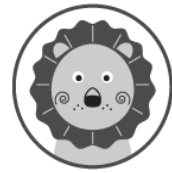
保育者 濱田佳代

長い時間をかけ準備してきた40周年記念事業ですが、正直なところ、果たしてどれだけの人が集まってくれるのだろうか、と思っていました。ですが、当日は会場はほぼ満席。私の心配はただの杞憂にすぎませんでした。また、現在「幼い子」の教室に通っている方も出席してくれたと聞き、とても嬉しかったです。みなさんのスピーチは「悩み、苦しくても、何とか前へ進みたい」という熱い思いにあふれており、我が身を振り返って「今の私自身はどうだろうか…」と改めて考えた1日となりました。

### 色えんぴつ

この度、保育室活動40周年記念式典に出席し、とても貴重なお話を伺うことができました。40年という年月を聞いただけでも長い歴史を感じましたが、先輩方が私の母とほぼ同年代であることに、より40年の重みを実感しました。これだけの長い年月を積み重ねていくことはとても大変で、今の自分たちの活動があるのは先輩や歴代の職員の方々のお陰と痛感しています。

「保育室活動を通して考え方や生き方が変わり、栄養士や看護師の資格を取った」という先輩方のお話が心に残りました。子どもを育てるだけにとどまらず、社会に貢献できるというのは、人として女性として素晴らしいことと思います。今はまだ子育てに追われ、先の人生を考える余裕のない私ですが、どのような形でも良いので、いずれは先輩方のように社会や地域に貢献できる女性になればと思います。今は保育室の仲間として、公民館活動グループの一員として、社会に地域に何が発信できるのか考えていきたいと思っています。



### マカロン

40周年イベントでは、創立当時の苦労やこれまでの歴史を知り、保育室への理解を深めることができました。また、諸先輩たちのこれまでの活動を知ったことで、女性として、母親としての今後を考える機会を得ました。

特に印象に残ったのは、佐藤さんや岡本さん、大澤さんの話です。佐藤さんはアメリカと日本の子育ての違いを話されましたが、親子で共に成長していく機会がアメリカになく、それがここにあることがどんなに素晴らしいことかとの内容に、新たな考え方をいただきました。また、世代を越えて「同じ母親だから」と私たちの活動を応援してくださる岡本さんの温かい気持ちも嬉しかったです。大澤さんの「忙しくてカメラをバッグに入れることもできなかった」との話には、幼い子がいる時期の共通の苦労を感じました。

短時間ではありましたが、自分たちの今後を考える参考となりました。また機会があれば、諸先輩たちの話を聞きたいです。

## クローバー

先日40周年記念講演会に参加し、諸先輩方のお話を聞かせていただきました。「母が、学習する権利」をかけて保育室の要望を市に提出し、何度も話し合いを重ね、そしてついに保育室という場を実現させたそのころのお話から、熱意とパワーがひしひしと伝わってきました。「子どもが小さい時くらい、子どものことだけ見てあげるのが母親の愛情」「学習というのは、自分のお金を投資してこそ成り立つもの。公のものである公民館で無償で学習など、学習とはいえない」などという言葉にもめげず、後輩である私達のためにも、保育室をつないでくれた皆さんに深く感謝いたしました。



## ひまわり

保育室にかかわってきた方々のお話をじかに伺い、長い歴史を改めて知ることができ、保育室活動について一層理解が深まりました。この会の準備段階で百瀬さんのレポートに触れ、現在学習させていただいている立場として、保育室活動について時間をかけてグループで話し合いました。その時ほんやりとしていて分からなかったこと、例えばこの活動の生い立ちやこれまでの長い歩みを皆さんの思いのこもったお話で知ることができました。そして多くの方がおっしゃった、子どもだけではなく親も『人は人とかかわりの中で育つ』、『子どもと親が共に成長する』という言葉が特に心に残りました。

5つの公民館の環境は異なりますが、たくさんの方がこの活動を経てご自身の生き方を考え、さまざまなフィールドで活躍されていることを知り、保育室活動の奥の深さのようなものを感じたのと同時に、このような保育室活動というすばらしい機会を次の世代にも引き継いでいきたいと改めて思いました。

## まんぐろ〜ぶ

40年という長い歴史、その間の子育て環境の変化・親の変化、いろいろなことを今回のイベントで知ることができました。「学びたい」という強い気持ちからこの活動が始まり、たくさんの方が見つないできたたすきを、今後どのように発展させ未来につないでいくか。今現在活動をしている現役の母たちがしっかりと考え、また次世代に伝えていくことがこれからの課題であると思います。

公費を使って活動させていただいていること、さらには保育室活動40年の歴史を理解し、利用者一人ひとりが意識を持って活動していくことが大切です。そして、保育室から地域へつながっていくことも大切だと思います。そのための糧を保育室活動を通して学び、母として、女性として、一市民として、自信を持って進んでいけたらいいと考えています。今回、諸先輩方のお話を聞いて、今まで以上に身の引き締まる思いがしました。

## とことこ

40周年の記念行事には参加できなかったのですが、参加した方の感想を聞いて、深みのある会だったんだと感じました。「保育室活動を通して自分の人生が変わった」方々がたくさん活躍していることに勇気づけられます。子育て中に、このような学びの場を与えてくださることに改めて感謝したいです。



## 幼い子のいる親のための教室

現在参加している「幼い子のいる親のための教室」の歴史や、さまざまな方に支えられて成り立っていることを知り、40年という重みに今学んでいる教室の貴重な時間を大切にしなければと思いました。また皆さまの活動、活躍を知り、自分も何かの形で地域に貢献できる1人になればと思いました。(遠藤純子)

子どもや地域にかかわる活動をされている方が共通して、「保育室活動が今の自分のベースとなっている」とおっしゃっていたのが印象的でした。これからどうやって生きようか、と考えていた私には先輩方が輝いて見え、良いヒントを頂けたと思っています。私も活動で得たことを活かし、地域社会に貢献できたらと思います。(鈴木美佳)

40年前に保育室を開いた方々のおかげで、私は同じように子育てに悩み、前向きに進もうとするお母さま方に会えました。今、子育てを楽しむことができます。講演する方々を拝見し、女性はすばらしいなと感じました。子育てを通して悩み、強くなり、次世代に伝えていける力はすごいと思います。(若杉祥子)



保育者から

# 恋ヶ窪公民館



保育室活動 40 周年、おめでとうございます。今日まで多くの職員、おばちゃんたちが継続する保育の大切さを学習者さんたちに伝えてきたたまものです。

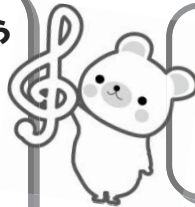
今後も地域の子どもたちを見守り、育ていく保育活動を大事にしていきたいと思ひます。

この 40 年間で子育ての環境は大きく変わりました。しかしいつの時代でも、子育ては親子だけでなく親も子も大勢の人たちの中で育ち合う関係が大事なんだと改めて思ひました。その大勢の輪が、こんなに広がっているのだと実感する集ひでした。

保育室に預ける側と預かる側にかかわらせていただいて 18 年。

充実した子育てができたのも保育室のおかげだと思ひております。

40 周年おめでとうございます。



保育室の 40 年の歴史を知ることができ、とても良かったです。

これからも、保育室の歴史が末永く続いていってほしいと思ひます。

40 年の保育室の歴史が、当時の方々からお聞きできた有意義な時間でした。

母親、保育者としてかかわることが私の学びの場でもあると感じました。

保育室 40 周年おめでとうございます。

私自身、子ども 2 人保育室でお世話になり現在も保育者としてかかわられていることを嬉しく思ひます。今後も子どもたちの成長を一緒に見守っていきたく思ひます。

40 周年おめでとうございます。

保育室に携わって数年、いろいろな勉強をさせていただき、私自身も成長することができました。保育室のさらなる発展を願ひます。

今回参加して、保育室が幼い子のいる親にとってとても大切な場所だと改めて感じました。これからも、保育室がずっと続いていくことを願ひています。



# 自主グループから

## 美麗心

保育室40周年おめでとうございます。

私達のグループはフラダンスを中心に月1~2回程、講師の先生をお呼びして  
楽しく学ばせて頂いています。

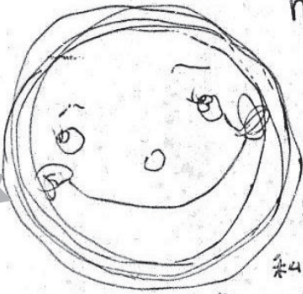
毎年、公民館保育室のクリスマス会を発表の場として目指し、練習に励んでいます。

今回の行事には6人参加させて頂きました。

参加してお話しを聞かせて頂き、それぞれメンバーに共通している思いは、国分市の  
公民館保育室活動が、40年前から子育て中の母親達の大変な苦勞や  
努力があって、77千の方々の支援によって長い間続けてこられ、今に至っている  
のだという事を知る事ができました。

そのため、私達は活動ができる有りがたさと、有効に使用させて頂かなければ  
いけないと感じさせられました。

「子供と共に成長する」公民館はそれを実現するための場だと改めて感じ、  
先輩方からの、この保育室活動を後世へよりよく引き継げるよう、今の私達の  
活動も大切にしていきたいと思っています。ありがとうございました。



## māne (モーネ)

自主活動(年目です。活動内容は、やりたい事がたくさんあって(スウェーデン語、  
パソコン、ハーツ、などなど)まで検索中です。今のところは、クリスマス会に向けて  
の新曲づくりや、放射線についての講習会などをしてました。

『40周年記念事業に参加して』

私は2年前、子育てという初めての経験をして、我が子とほとんど1対1という状況の中  
煮詰まっていた所、ふと見れば新聞にのっていた「幼い子」の講座に「保育付き」  
という言葉に気が来て応募しました。参加が一番感じたことは、「同じ様に悩むお母さんがいる、優しい子」ことに  
とても安心したこと。今回この会に参加して改めて知ったことは、この本業に今私たちが公民館に集い、保育付き  
の講座を受けたら、決定的な子育てのコミュニケーションの場を持つのは、何十年前から子育てをするお母さん達が、  
声を上げて少しずつ、積み上げて来た結果のたまものがあるということです。今回、とても印象に残った  
言葉が、元学習者の方が言った言葉で「自分の子と幸せにしたいけれど、周りの子と幸せにする事だ」という言葉です。  
孤島は「ちな子育てを「地域との関わり」によって守る公民館の保育室。この保育室を次の世代の為に守るのは、  
今、私達の番なのだ」と思いました。





# 光 公 民 館



保育室活動を離れてかなり時間がたっている方たちが次々と登壇され、情熱いっぱい保育室のすばらしさを語っている姿は、時代がどんなに変わっても変わらない、母の、子の成長と幸福を心から願う深い愛情を感じました。また母親自身が生き生きと明るく前向きに仲間とともに成長し続けていくことが子どもたちの成長にもつながる、そんな機会を与えてくれる保育室活動がいつまでも続いてほしいなと心から願っています。

公民館保育室にかかわってこられた方々のお話を聞き、また公民館の歴史を知り、改めて、公民館保育室の大切さを実感しました。

これから母になっていく女性たちにはもちろん、市民の皆さまにも広く知っていただきたいと強く思いました。

公民館保育室が今後も存続していくことを心から願います。



講座から自主グループ活動を経て、保育者になって2年になります。その間に幼稚園での役員やサークル活動なども経験し、自然の流れでPTA活動にも関わるようになりました。子どもの生活する環境を考え整えるというPTA本来の仕事のほかに、保護者のニーズに合わせたPTA活動への移行の必要性を感じ、話し合いを進めています。PTA活動の合理化などのいろいろな意見が出る中、一体何のためのPTAなの？と自問することが度々あります。いつも出る答えは同じです。「子どものためのPTAだよ。親のためじゃないよ。仕事じゃないよ。」

40周年記念事業全体会で、この想いを再確認しました。「自分の子どもの幸せを願うなら、まず周りの子どもを幸せにすること！」同感です。自分の行いが良くも悪くも自分の子ども、家族に戻ってきます。このことは、公民館活動、地域活動で実感しています。震災直後の心細い時期、地域ネットワークに助けられました。人は1人では生きていけません。これからも地域のつながりを大切に生活していきたいと思います。

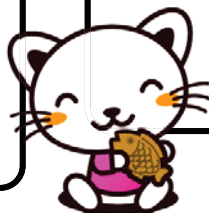
発表者のみなさんの話から活躍の場はさまざまでも、皆原点に保育室活動があり、それが支えになっている、ということが良く分かりました。

保育室活動で仲間をつくり、仲間とともに学び成長していくことのすばらしさを再認識しました。

公民館の保育室は「託児」をする場所ではなく、預けることを学び、仲間とともに育ち合うところである、ということを常に念頭に置き、そのことを次世代にもしっかり引き継いでいかなければならないと思いました。

初めての参加で準備にも参加できず、何をするかさえ分からないまま記念事業に出席しましたが、これまでの先輩方の努力、活躍を聞いて自分も今保育者としてかかわれていることを嬉しく思います。

これまで保育室を続けてくれた先輩方に感謝です。



子育ては頭を悩ませることが多く、時に母親としての自信を失いかけてたり、どうしたら良いのか分からなくなってしまうたりしながら日々を過ごしていた私です。

公民館保育室に子どもが通うようになり、仲間と過ごす時間や学びの中で、少しずつ育児の悩みやその時々の問題に向き合えるようになってきました。

今回、40周年記念事業で公民館保育室の立ちあげからのお話を拝聴し、今の私が当たり前のように利用させていただいている保育室が、当然ですが、何もないところを一から、そして、子育て中の母親が中心となって作りあげられたものであることを改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私も仲間も子どもたちも、大切な時間を過ごさせてもらっているのだと思います。

こうやって歴史が続いて、今回壇上からお話いただいた方々のように、私もいつか若いお母さん方に、「私も子どもも保育室で育ったのよ～」と話せる時がくるといいなあ、と……その時を楽しみにしながら、日々の子育てをまた頑張ろうと思える、貴重な時間を過ごさせていただきました。

保育室の40年は私が思っていたよりもずっと、子どもたちへの思いにあふれ、エネルギーに満ちた年月でした。ここで出会った仲間がさらに小学校、中学校でPTAの活動の核となっていることも改めて実感しました。

私は十数年前に子どもを保育室に預け、講座を受けました。そして私のことを本当に心配してくれて、困ったときには手を差し伸べてくれる大切な仲間をつくることができました。心の支えになってくれる仲間がいるから今の私があり、いろいろなことに向かっています。それはきっと40年前も今も同じなんだと思いました。

活躍の場がどこであれ何をするにしても、公民館保育室で仲間とともに学んだことが今の自分につながっている。そう思うと、とても貴重な体験をさせていただけたと、ありがたい気持ちになります。

この事業を通してさまざまな方と出会い、たくさんのお話を聞くことができました。そして公民館で保育室活動はしていなくても、この地域の中でまだまだ学習することができると実感しました。地域を大切に思い、地域のために頑張っている方が本当にたくさんいらっしゃいます。私も地域のために、子どもたちのためにできることがあるはず。みんなの大切な公民館保育室を守っていくために、私ももっと成長しなくてはならないと感じました。

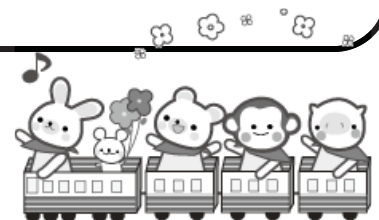
私は仲間に誘われ40周年の実行委員会から参加しました。しかし、私はいきなり疲れてしまいました。なぜか？ 子どもが2人とも中学生になりPTAや地域行事も少なくなった結果、「人の意見をじっくり聞く」「みんなで実際に顔を合わせて、1つのものを作り上げる」時間が減っていたのです。



久しぶりに出かけていった話し合いの場。いろいろな意見をしっかり聞いたり、分からないことを質問しているうちに、だんだんぐったりしてきました。でも、それは疲労感とはまったく違います。なぜだか心地良い疲れ、病みつきになる疲労なのです。

そのとき、私は思い出しました。「ああ、これが保育室活動なのだ」。この感覚が育児の土台となり、私の血や骨になったのだと。震災以降マスコミでは「絆（きずな）」の連呼ですが、私たちの普通の暮らしや育児の中で、どれだけ「絆」があるのでしょうか。どれだけ人と向き合う時間があるのでしょうか。

なんとなく参加してしまった40周年事業。しかしここで私は保育室の大切さをあらためて思い出し、誘ってくれた仲間とますます仲良くなったのでした。



# もとまち公民館

## ☆ グループ ☆

### 『WOMAMA』

2010(H22)年度「幼い子のいる親のための教室」からの保育室グループ。

現在保育室利用の子どもは10人、活動しているメンバーは7人。

今回参加してみて、考えさせられる点がありました。保育室を設置するにあたって予算やいろいろな問題がある中で、多くの方が設置に向けて努力してくださったことに、感謝の気持ちを覚えました。今までは、子どもと離れて過ごすことが保育室の一番のポイントでしたが、そのような気持ちだけで保育室を利用するのは自分の中でつかえるものができませんでした。育児中の貴重な2時間をどのように過ごすことが最良なのか考えるいいきっかけになったと思います。ある方のお話で、アメリカでは子どもと親が共に成長し合うという文化が薄いということでした。その話を聞き、さらに自分が恵まれている環境なんだと感じることができました。私たちは、この保育室が設置されるまでの経緯を周りの方に伝承していくことも大切なのではないかと思います。なぜなら、保育室活動の重みを感じることができるからです。それが、意味ある活動へとつなげていけるのだと思います。



### 『ゆいま〜る』

2009(H21)年度「幼い子のいる親のための教室」からの保育室グループ。

現在保育室利用の子どもは1人、活動しているメンバーは4人。

記念事業の午後の部でお話を伺い、まず、保育室の歩みがよく理解できました。この歩みを知っているのといないのとでは、保育室を利用するときの心構えが違ってくると思うので、公民館の職員の方が「かたりべ」となって保育室を利用する全員に伝えていってほしいと思いました。

次に、私が何気なく参加している自主グループ活動の時間が人生の中でも忘れられない輝いた時間になるのかもしれないということに気付きました。過ぎてしまってから「あの時は楽しかった、もっとこうしていれば」と後悔しなくてすむように、グループ活動を楽しみたいと思います。

最後に、「人は人と人とのつながりの中で成長していく」というお話がありました。保育室を通じて子どもたちが刺激あって成長していくように私たち母親もお互いに刺激あって成長していきたいです。そんな仲間を同じ地域に持てたことにとっても感謝する気持ちでいっぱいになりました。

### 『バンビーナ』

2005・06(H17・18)年度「幼い子のいる親のための教室」からのグループ。

現在保育室利用の子どもは3人、活動しているメンバーは8人。

式典にはバンビーナから4人が参加しました。活動の歴史や先輩方の思いを直接聞くことができよかったのですが、現役グループとしては、活動を続けながら何か形ある成果を示さなくてはならないのかというプレッシャーを感じたメンバーも多かったようです。

自主グループになって6年目ですが、保育室活動には各自が明確な目標を持って集まったのではなく、公費で賄われているこの制度にかかわったからこそ、地域というものに気付き、それをより意識できる社会人に成長できたと思います。振り返って初めて、自分も子どもも人とかわり続ける中で育ち、やがて地域や学校の活動でも貢献している人材が、実は大勢いることも発見しました。

もとまちには先輩グループもないので、いよいよ私たちが保育室のことを後進に語る段階にきているのでしょうか。課題は多いですが顔を合わせおしゃべりしながら模索していきます。



## 『ママテイス』

2006(H18)年度ピラティスマットエクササイズ講座からのグループ。

現在保育室利用の子どもは9人、活動しているメンバーは13人。

40年前は、子どもを預けて母親が学ぶという環境がなく、公民館の職員の方々に保育してもらいながら母親が活動していたという話を聞き、大変驚きました。その後、母子分離で母親が学べる場と保育室を作るため、当時の母親たちが市議会に陳情するなどいろいろと努力されていたことを、今回初めて知りました。

五館すべてに保育室がある現在の環境は、とても恵まれた環境なのだと思います。また、当時の女性たちの行動力はすばらしいと思いました。

近隣の他市では、このような制度がないと聞いてますし、ぜひともこのまま続いてほしいと思います。



## ★ 保育者 ★

元保育者 大谷弘子

公民館保育室に子どもを預け始めた自主グループの活動、そして保育者へと続いた活動を卒業してすでに5年、実行委員会に出席しながらちょっと浦島太郎の気分だった。

当日、何人の人が集まってくれるのだろうか。皆のそんな心配をよそに、ホールがいっぱいになるほどの参加者で、この40年にわたって保育室を利用した人たちがそれぞれの思いを語ってくれた。どの人の話を聞いても、保育室で学んだ人たちの思いは皆同じなんだ、仲間なんだと、とても嬉しかった。今、人間関係が希薄になり、そのことが子どもも、高齢者も生きづらい世の中にしてしまっていると思う。当時、なぜ公民館が無料である必要があるのか、なぜここで学んだことを自分だけの学習にしないで地域に還元しなければならないのか、「考える会」の中で真剣に話し合ったことが懐かしい。

保育室の学習が今も大切に続けられていることが、とても嬉しく、今後もずっと続けてほしいと強く願う。

翌日、友人から「今日は随分元気ね」と言われ、そうか、これが人から元気をもらうってことなんだと思い、私も人に元気を与えられる人間でありたいと思った。

保育者 米永真理

公民館保育室活動発足から現在活動中の皆さんの話しを聞き、先輩方の熱意と行動力が今につながっているのだと改めて確認することができました。

子どもと一緒に歩み出した公民館保育室が地域でのつながりを広げるきっかけとなり、私自身が仲間の中で育てられていることに感謝しています。これからも微力ながら保育室活動のお手伝いをし、保育室にかかわる皆さんと共に成長し、50周年に向けて歩んでいければと思います。



保育者 山口直子

私は保育者になって3年目で、保育室が作られたころのお話を聞いたのは初めてでした。いまでは公民館で学ぶことは珍しいことではありませんが、40年前はお嫁さんが子どもを連れて公民館で学ぶというのが、周りの人からあまり理解されなかったことなど驚きました。そのような中実際に活動してこられた方は、自分たちが仲間と共に自主的に学んで1つ1つ作りあげていかれたのが分かりました。女性の生き方、家族の関係、社会も変わり続けますが、保育目標の「仲間の中で育つ。自立をめざす。」は子どもだけでなく、私たち大人にとっても大切な言葉です。

# グループ紹介 と 先輩からのひとこと

並木公民館では、2012(H24)年2月現在、7つの自主グループと「幼い子のいる親のための教室」が保育室活動しています。

40周年記念事業を終え、それぞれのグループが、現在の活動を見つめ直し、これまでに活動を通して得たものや、今後の活動について考えてみました。

- ① 活動内容
- ② 活動の成果・活動していて良かったこと
- ③ 今後の展望・方向性

## ソレイユ(1年目)

- ① 子育てについて。
- ② 現役子育て期の今、目の前にある問題について話したり相談したりしています。月齢が0歳～4歳と割と近いですが、一番変化の多い時期。0歳は0歳の悩みを4歳は4歳の悩みを抱えています。自分だけで悩むのではなく、サークルで話すことで、子どもの少し先の成長が予測できたり、悩んでいる・悩んでいたのは自分だけではないことを知り、気持ちが軽くなっています。調理実習では、幼児食やおやつを作っています。今後は、地元の食材を使って、子どもたちに地域のことを知ってもらおうきっかけにしたいと思います。
- ③ 子育てをしながら、ママたちのライフワークの充実を図りたいと考えています。

## Ciao(7年目)

- ① 食育を学ぶ。家庭の食に関する悩み、疑問等を話し合い、レシピ交換、調理方法を教え合っています。フリーペーパーで子どもと一緒に作れるレシピの紹介やおススメの本の紹介等を行っています。
- ② 子どもも親も地域に知り合いが増え、いろいろなシーンで笑顔が増えた。「我が家の食」を見直すきっかけとなりました。
- ③ 卒室しても定期的集まり、情報交換を続けていきたいです。地域の祭り等に参加したり、公園や近所で子どもたちを見守る目を持つことを意識し、地域とのつながりを持っていきたいです。

## パラダイス(8年目)

- ① 幼稚園ガイドの冊子の作成、廃材を使ったおもちゃ作り等しています。
- ② パラダイスは講座を受けて活動を始めたメンバーはお子さんが卒室しています。しかし、毎週の活動や季節ごとの行事に顔を出して、当時の話を聞いたり親たちの情報交換の場になっていて、横のつながりが出来て保育室という団体ではない活動の良さを感じています。保育室で出来た絆で預け合いができたり、先輩ママに教えてもらえることが多く頼りになる存在になっています。子どもにとっても親とも他人とも違った絆の強い大人が目があるのは心強いことだと思います。
- ③ 今後は保育室活動を知ってもらおう活動をしていきたいです。

## 幼い子のいる親のための教室

(2011年9月～)

初めは何をするのかも分からず参加した私たちですが、ジャーナリストの猪熊弘子氏を講師に、毎回テーマを決めて熱く(?)討論しています。初めころは吐くほど泣いていた子どもが今では楽しそうに保育室に入っていったり、緊張して人前で話すのが苦手だと言っていたメンバーが、実は話してみるととても楽しい話をみんなに提供してくれたり、親も子も慣れないことばかりで大変ですが少しずつ楽しく過ごせるようになってきました。最後までみんなで頑張ります。

すでにグループとしての活動は終了している先輩お2人にも、公民館での活動を振り返り、現在の子育てや生活にどうつながっているのか、お話を伺いました♪

## ★ ★ ★ ★ ★ スマイル(3年目) ★ ★ ★ ★ ★

- ① 季節を楽しむ調理実習。  
お茶の歴史・作用・効能を学ぶ。
- ② 調理実習やお茶の学びを通して生活に潤いが出ました。  
グループの仲間から刺激を受け、新しいことへチャレンジしようという気持ちが前向きになりました。  
保育室を考える会などを経て、子育てについて客観的に考えて意見を言うことで自己を見つめ直す機会が持っています。
- ③ 子育てや生活に通じたお茶について、講師を招いてより専門的に学び、地域に発信していきたいです。  
地域・社会貢献できるよう(例えば老人ホームや地域の祭りなどで話の輪が広がるようなお茶を提供するなど)働きかけていきたいです。

## ボウ・ママン(2年目)

- ① 自主活動2年目の9名のメンバーで活動するボウ・ママンです。グループ名は、フランス語で「ママの声」という意味です。  
子育てに悩む母親に役立てられる情報の発信や、子どもだけでなく地域に住む人々に役立つことを考え、活動しています。  
H23年度には、グループ企画事業として、「家庭でできる自然なホームケア」をテーマに、子育て世代から高齢者まで対象とした講座を開催しました。
- ② 学校や幼稚園の役員など地域社会に参加するメンバーもおり、保育室活動を通じての成果と成長を感じています。
- ③ 今後も幅広い世代に向けた講座の企画を考えています。

## ポコアポコ(1年目)

- ① 活動のテーマは「子どもの衣食住に関する研究」。“ポコアポコ(一歩一歩)”の姿勢で話し合いや実習を重ねています。
- ② 子どもを預けて過ごす2時間はとても充実しており、仲間との絆は孤独感や育児の心配を解消してくれます。グループ内にアレルギーの子どもがいたことがきっかけとなり、最近は除去食や代替食品についても知識を深めています。また、子どもたちの成長を仲間や保育者の皆さんとともに見守れることもこの活動の大きな喜びです。
- ③ 保育室存続のため、卒室後も行事などで結束しつなげていきたいと願っています。また、活動で得た知識一特に、アレルギーに関する情報を地域に発信していけたらと思います。

## 4Season's(4年目)

- ① 子どもと楽しめる季節のイベント(七夕など)の準備と、子育てに関する情報のフリーペーパー作成の、二本柱で活動しています。
- ② これまでの子育てを振り返る機会があり、これらに対して気持ちも新たに臨めるようになりました。  
また、自分たちの経験や集めた情報を発信し、同じような子育て中の人の役に立てるなど、家にいるだけではなかなか感じられない地域とつながっている実感が持てました。
- ③ 子どもが卒室してしまっても、活動拠点は公民館としたいです。季節のイベントなどを主催し、年齢にかかわらず地域の子ども同士の交流や、さまざまな年代の人との交流を深めるきっかけとなる場を提供できればと思っています。

うちの子どもが保育室にお世話になって十数年。その子も今年中三です。

講座では、子育てや同居の悩みなどを講師を交えていろいろ話ができ助けられました。

その後の自主活動では、さまざまなテーマで取り組み、取材などをして地域に密着できたのがとても有意義でした。

活動で地域に密着できたことで自治会役員やPTA活動の際に知り合いが多くとても助かっています。

(CAM<sup>2</sup> 福田すず江)

私は、19年前に保育室にお世話になっていました。2人の子どもを抱え、仕事と子育ての両立に苦悩していた私を救ったのが、母と子の講座と保育室活動でした。その時の体験は、大切な「子育ての出発点」として私の中に息づいています。また現在でも、その時の講師の方、公民館の担当者、そして、活動を共にした仲間とつながることができ、その方々との交流から得られた経験は、人生の珠玉の言葉になり私を支えています。

(H<sub>2</sub>O 平出美栄子)

## 保育室 40 周年記念事業に参加して

記念事業に参加された皆さんから出して  
いただいた『感想文』からの抜粋です

転勤族で国分寺に来て、この土地がと  
ても環境がよいのはもしかしたら公民館  
で色々なことを考えた母達がいることも  
理由の1つかもと思いました。私も転勤  
してきて気持ちが救われた1人だと改  
めて感謝しました。(ポコアポコ 多田)

これからも母  
と子が成長でき  
る場である保育  
と自主活動が続  
いてほしいと思  
いますし、まだ経  
験は浅いですが  
活動を応援でき  
たらと思います。  
(保育者 小野)

今では考えられない  
くらい時間を割いて保  
育室の土台を作ってい  
ってくださったのだと  
思いました。その上で  
各グループ活動も長く  
濃く進められたんだと  
改めて感じました。  
(パラダイス 村山)

お話の中で「生かすも殺すも、運営  
する母親たちの姿勢による」との意見  
が、開始当初から出ていたことには驚  
きでした。なぜ五館の会や考える会が  
必要なのか、たびたび議論になりますが、  
ここで語られた中にその答があっ  
たように思います。現在、私たちは当  
たり前のように保育室活動・自主グル  
ープ活動を行っていますが、その始ま  
りが当たり前に始まったのではない  
のと同じに、存続していくことも決し  
て当たり前ではないのだと思いま  
した。単に便利だからという理由では、  
一時保育と変わりません。成り立ちを  
知り、次の世代に伝えることが重要と  
の言葉通り、今回の記念事業は“集大  
成”ではなく“通過点”なのだと思  
いました。(4 Season's 加藤)

皆さまが保育室  
活動を通じ、経験し  
て、各方面に活躍さ  
れている話を聞き、  
まずうらやましく  
思い、自分はまだ  
勉強不足だと感  
じました。そして  
私にもまだいろ  
んな可能性がある  
かもと思いました。  
(ボウ・ママン  
七田)

公民館保育室活動で得たものを地域に還元していく  
諸先輩方のお話に自分も頑張らないと！と喝をいただ  
いた気がしました。そして、現在活動されている方のお  
話で、自分が精神的に豊かになり周りへ良い影響を与え  
ていくというお話が印象的でした。(Ciao 恩賀)

自分の親の世代の方々が、それはきっと困難  
であった時代にもかかわらず、既に現在私たち  
が感じている「母親だって学びたい」という気  
持ちを持ち、その環境づくりに奔走されたとい  
うことに感銘を受けました。そして現在もその  
保育室活動で得たモノとつながりを持ちつつ、  
仕事や社会活動などをされている方がいらっ  
しゃるということは、これからの活動をどうい  
うものにして行こうかと模索している私たち  
にとって、指針となり、目標となる心強いもの  
でした。(ボウ・ママン 荻阪)

今回、初めて父親に子ども2人を預けまし  
た。先輩方のお話もとても興味深いものでし  
た。現在、こうして子どもを預けて、母親が  
学習できる環境があるのも、先輩ママが築い  
てきてくれたお陰なんだなと思いました。こ  
の活動を次の世代までつなげていきたいと  
も思いました。(スマイル 木村)

私が子どもを預けてい  
た時は、様々な環境が整っ  
ていたこともあり、これと  
いって疑問も持たずに預  
けていましたが、その陰に  
は、この方々の働きかけが  
あったということ深く  
知る機会でもありました。  
今回感じた歴史の重み  
を感じつつ、日々の保育に  
取り組んでいきたいと思  
います。(保育者 服部)

先輩方のお話を聞くと、当時のお母さんたちと今の私たちとは、初めは“保育室で2時間預かってもらえて、少しでも子どもと離れた時間を過ごせる”と思ったこと。その後、自主活動をする中で、2時間が私たち大人にとっても学ぶ場になっているんだという認識をもっていったこと。当たり前ではありますが、基本的な考え方は同じだったことに気がきました。(4 Season's 野中)

今回の講演会では、40年前の厳しい育児事情の中で、市や公民館職員、子育て中の母を交えての話し合いから保育室開始に至るまで本当に大変だったと感じました。同時に育児を通して母親たちの強いつながりも感じました。40年たった今もお付き合いがあることが、子育て真っ最中の私の励みです。(Ciao 友兼)

子どもが小さかった時にはじめて保育室活動が子どもが大きくなった今の自分につながっているという話、初めはよく分からないまま活動していたという話が印象に残っています。(ポコアポコ 広田)

たくさんの先輩方から保育室創設時の話を聞くことができ、保育室とはどういうものか、どのような意義があるのか改めて考える良い機会になったと思います。(保育者 木村)

保育室に子どもを預けて活動されたお母さんたちが、その後様々な方面で活動を広げ、地域に貢献されていることを知り、今自分が保育者として保育室に関わっていることはほんのわずかでも地域貢献のお手伝いができているのかなと思ひ、新たに保育者としてのモチベーションが上がったと共に責任も感じました。(保育者 高野)

子育て真最中のお母様方が子育てを楽しみ仲間を広げ、知識を豊かにすることの小さな手助けができるよう、また私も保育者として学んでいきたいと思っております。(保育者 吉田)

特に印象に残ったお話しで『PTA など大変なこともあるが、後のエネルギーとなる』とのお話しがありました。この言葉は幼稚園に子どもを通わせている母としては、とても心に残る一言でした。それは、『1人の人間として考えていく力を身につけ、本音で話していく』という公民館活動の根底が自分自身の中に根付いていれば、社会の中で活動していく足掛かりになると思うのです。その土台には、公民館で勉強してきた時間が影響してくると思います。

(スマイル 小澤)

多くの母と子が狭い世間の中で過ごしている、そんな時代にもかかわらず、先輩方は、大人が学習する場を求め、しかも、大人たちが学習している間、子どもも育ち合える環境を確保するため、奮闘していたことに頭が下がります。それに比べ、今の私たちは、便利なものに囲まれ、行政や周囲の方々も子連れに理解をしてくださり、また父親の子育て参加も多くなっているせいか、気軽に子どもと外出することができます。それに加え、インターネットで様々な情報を瞬時に得ることが、携帯電話で人とつながることが容易であったりするためか、保育室活動(自主グループ活動)の「学習の場」という大事な核を忘れがちな時があるかもしれません。

(ボワ・ママン 渡辺)

歴代の保育者さんのお話で、「子どもも親も人と人のかかわりを持つことで、成長していくもの」という言葉がとても印象的でした。(パラダイス 久保)



### 3. 当日参加者の声(アンケート)

121人の方から貴重なご意見をいただきました。一部掲載させていただき、今後の保育室活動に生かしたいと思います。

#### 《卒室した人から》

保育室活動が、親も子も、明るく楽しく成長できる場として、今後も続いていくことを願っています。

私自身、保育室の活動にとっても助けていただきました。今の生活の基盤ができたと思っています。

とても良い企画でしたしすばらしい報告でした。「生きる力を学ぶ場」「主体的に生きることを学ぶ場」としての公民館、公民館保育室の意義を改めて学びました。

40年前に保育者として参加し(単純に託児のおばさんとして)その後「預ける事を学習とする」ん? 理解するまでずいぶん時間かかりました。今日の発表者同様、今の生き方の根本になっているのが、保育室の活動です。いつも静かに見守り私たちの活動を支え広げてくださったパイオニアである高橋元館長にお会いできお話を聞くことができ、出席したことを喜んでおります。

歴代の職員、保育者、学習者が、これだけ大勢集まること自体すばらしいと思います。原点を確認しつつ、つながりも実感できる集まりでした。こういう機会を定期的に催していることがすごいと思いました。

公民館保育室活動にかかわったことのない方々、来賓の議員さん、ほかの方々が、今日の話から何を受け止められたか、何を学びとられたか。後日で結構ですから、公民館報にでも発表していただきたい。切に願います。

「人との関係の中で育ちあう」、80歳を過ぎた今も生かされている。

公民館保育室から、自立した市民が地域に広がっていると実感し、心強く思いました。かつてグループを作り、綿毛が飛んでいった地に種子が育ち、花咲くことを望んで「たんぼぼ」と命名。今日はそれを誇りに思い、幸せでした。

保育者として20年かかわった。子どもに、どんなに小さくても、1人の人間としての人格を持っているということに気付かされた。その周りには大人が、そのことを大切に考えて、大人も、その人格をお互いに大事にしあう場が保育室であったと思う。

今、老親の介護や、自身の老後を考える年代となり、改めて子どもと老人は地域の中でしか生きられないと実感しています。お金さえ出せば、多様なサービスが得られる時代ではあるが、地域の中で人間関係を大切にする生活こそ、これからの時代で重要になると思います。

保育室が原点で今の私があることを日々実感しています。子育てのみで、1日誰とも話さない日々が続いたころ、保育室は仲間を与えてくれました。それは子どもや夫の仲間にもなりました。保育室を離れた今も仲間と活動しています。

保育室でおばちゃんをしています。毎回「人は人とのかわりの中で育つ」を意識して保育をしています。今日の話聞き、40年前からこの考えが大事に継続されていたのかと感心させられたと同時に、この歴史ある保育室の活動、考えを責任もって伝えていかなければならないとも感じました。

《活動中の人から》

保育室活動の、出口のないテーマに揺らいでいたが、何か光が見えたような気がする。

私も地域活動に参加していれば自分も子どもも成長できる。そして、地域の役に立つ人間になりたいと思います。

公民館は単なる会場の貸し場ではない、自立した市民の社会教育の場ということを大事にしたい。

多くの先輩方のお話から、40年の活動を知ることができ、とても貴重な時間でした。

ここで学んだ人たちは、その後も社会や地域で活躍されている人が多いなと思いました。

40年の歴史を学ぶことができました。立ちあげるにあたり大変なご苦労があって今があるんだと再認識しました。自分の中でも保育室のとらえ方がまた変化しました。

保育室で学んだことを生かして、今後は地域のため、社会のために行動したい。

先輩方にも初めてお会いでき、地域のつながりの大切さを改めて考えさせられる1日でした。

保育室の活動に加わったばかりで、まだ何をしてよいのか、私がどのように変わる（学べる）のか、あいまいでした。はっきり何とは言えないけれど、なんとなく分かったような気がします。

保育室活動発足当時の話や、先輩たちの活動を通しての心、気持ちの変化などが聞いてよかったと思います。今後の活動、また意識の持ちようについての参考にさせていただきます。

今まで、いろいろな方々の支えでこの保育室活動が続いているということが分かり本当に感謝です。私たちが今、親子共に育ち合うことができる場を、これからも大事にして続けていきたいです。

自分の子どもを幸せにしたいければ、周りの子どもを幸せにすれば良い…という言葉が印象的でした。いろいろな方々の努力・活動があって今の保育室があるんだなぁと実感しました。

私は、一昨年公民館だよりで「幼い子～」の教室を知り、なんとなく応募しました。教室で、半年間とても充実した時を過ごすことができ、現在引き続き「モーネ」として活動を続けています。今回いろいろなお話を聞き、たくさんのお母さん方、公民館の職員の方々が市に要望し、少しずつ改善し、努力を続け、声をあげて活動してこられたおかげで、今、私たちが活動できるのだと分かりました。これからは私たちが、次の世代のお母さんたち、子どもたちのために活動し、保育室という場を守っていかねばと、強く感じました。

公費で保育することの意味、母親たちの学びの意味が、とてもよく理解できた。母同士の学び合い、それを通した「生きていく力」の育成、学んだことの社会還元で、PTAや市民活動をしていくことなどアピールし、保育室を引き続き広げていけることを祈っています。

「考える会」「五館の会」…に出席していたときに、この活動を立ちあげた方々の伝説を聞きました。その方々が今でもご活躍くださっていることに、パワーをもらいました。

「幼い子」の教室に参加して、初めて人とのかわりについて真剣に考えました。出産後、ボーっとしていた私に活を入れ、社会性を育ててくれた場所だと感謝しています。将来を担う子どもを育てている母親を育てるため、これからも保育室活動が実りあるものでありますように！

大人の学習の場・保育室の大切さを改めて感じました。お一人おひとりの言葉と声が聞けてよかった。

40年前、この活動のために動いてくれた方々のお陰で、今もグループ活動を続けられていることに感謝します。その裏に大勢の方々の努力があることを忘れずに！

現在とは女性をとりまく環境が違いますが、今をよりよくするための声となり、力となる活動と感じました。

保育室の成り立ちや子を預けることを学ぶ、大人になっても生き方を仲間とともに考え学ぶ場である公民館保育、それを原点として社会にかかわり貢献していく大切さ…とても心に残る話が多かったです。

「自分の子どもを幸せにしたいなら、人の子どもを幸せにする」とても印象的な言葉でした。

来年度の保育予算が削られるという話、毎年出てくる五館の会への疑問、すたれる自主グループ、これらの現状の中、保育室の存在が時代に合わなくなってきたのかなという想いもありました。でも自分も保育室活動にかかわって6年、子どもが卒室してから3年、離れずにいるのは保育室活動による未来への希望があるからなのかなと改めて思えました。

1人の女性が子どもを育て、自分で考え行動していく力をつけていける保育室、公民館活動を大切にしていきたい。

公民館にかかわっている人みんなが、社会教育の場である公民館の保育室の役割を理解し、活動していることがすばらしい。私も、一生公民館活動を原点に、生活していきます。

40年の時の流れの中で、いつの時代にも変わらない大切なものを引きついで、これからもみんなできえ合い学んでいけたらいいなと思います。

公民館活動を通して学ぶことの大切さを知り、自分の力となり、地域活動に参加されているという方々を知り、今後の活動の力となりました。

「自分自身が変わることで周りの人が変わって社会までが変わる力になる」というメッセージ。しかと受け止めました。今日から前向きに自分を出して、改めて実行したいと思います。

議会で陳情した先輩方のお顔が拝見できてよかったです。若いママから見れば親より上の世代かもしれないけれど、基礎を築いてくださったのはこうした方々なのだ…とつながりを実感しました。長男が本多、二男がもとまちでお世話になり、2館でそれなりの年数の活動を続け、公民館保育室の年輪や地域の人とのつながりなどをひしひしと感じてきました。旧メンバーとは楽しい再会でしたが、現役メンバーとは、さてこれからはどうしたら良いの？ という話になって会場を後にしました。

保育室の歴史や先輩方の思いを聞いてよかった。私は皆さんほど保育室魂を發揮してはいませんが、いつかその日が来るのだろうか？ と自問自答しています。結果を残さなくてはいけないプレッシャーを感じてしまいました。

「これでいいのか」と常に考え、次世代にもつなげたいと思う気持ちはすばらしい。社会的には外で働く人にライトが当てられますが、専業主婦からスタートして、社会とのつながりを強く感じ、子どものために、次世代のために、ひいては社会のために動ける女性たちはとても有能だと感じさせられました。私もあきらめず、人に影響を与えられる人になれば幸いです。

自分たちの住む地域の大切さ、一人ひとりが地域のため何ができるのかなど、改めて考える貴重な時間を過ごすことができました。

現在、「若い子どものいる親のための教室」に通っています。何気なく預けていた保育室に歴史があり、多くの方のご苦労や公費の上に成り立っているということを知りました。先輩方が「今の自分のペースは保育室活動にある」とおっしゃいます。活動に本気で取り組み、地域とともに子どもを取り巻く社会がより良いものになればいいなと思います。

保育室目標の「人と人とのつながりで成長する」。これを初めて目にしたとき、自分自身に向けられている思いがしました。縁あって出会った仲間と共に成長していけたら…。

この活動を大切に、公民館が有料にならないように、また頑張りましょう！

現在子どもを預けて（有料託児）自分自身（母親）が学ぶ場所は多くありますが、親と子が共に育っていく場所は公民館しかないと思います。今公民館のあり方や、保育室のあり方が問われていますが、この大切な場所をなくさないでほしい。保育室活動が女性（母親）の人生を変えることが、今回の会を通して分かりました。保育室活動後にいろいろな場所で活躍されている方々の話を聞いて、これからの人生、私も頑張っていこうと思いました。

岡本さんの話、涙があふれてきました。震災後、遊ぶ場所、食べ物、飲み水、いろいろな不安がある中、子育てを終えられた方から理解をもらえてうれしかったです。どの立場になっても共感し合うこと、大切だと思いました。

自主グループ活動以外に五館の会や考える会など、正直大変だと思う。なぜこんなことまで？そんな疑問を抱くことがあります。その答が今日のお話の中にあっただように思います。現在自主グループとして活動していますが、この保育室活動は次に子育てをする人たちにぜひ伝えていきたいと思っています。

保育室活動を再認識できました。国分寺にこのような保育室が存在することに喜びを感じ、継続できるよう皆で頑張っていけたらと思います。

子どもと一緒に育つ大人の学習の場・公民館保育室。50周年おめでとうまで続けてほしい！

## 《その他の意見》

公運審一年目の委員。自分自身は保育室活動をしていないので、今日は学ばせていただきました。皆さん、それぞれのサークルやPTA、地域でさまざまな活動をしていることはすばらしい。今後の保育室のあり方について、これからもしっかり考えていきたいと思っています。

公民館保育室活動をまったく知らないママもいます。内容を話すだけでも参加したいという人が多いので、市報や公民館だより以外でも紹介したほうが良いと思います（親子広場や児童館など親子が集まる所にポスターを張るなど）。

市長・教育長にも聞いてほしいかった。

保育室の存在がうらやましい（私は子どもが幼稚園入園時に転入し、以前の場所にはなかった）。人と人とのつながりのもとになる「公民館」は大事だと改めて思いました。ただ、公民館全体を見渡すと、若いお母さん方・女性の姿が見えないのが残念です。利用者懇談会、公民館まつり等に、もっともって出ていただきたいと思っています。「大人が学ぶ場」は大事で、40年続くと学んだ方がちゃんと地域で活動、活躍しています！ と思いました。「公費」の意義、価値がある！ と思います。

### Ⅲ 資料

#### 1. 国分寺市立公民館保育室の40年

年度	月	主なできごと
63/S38	4	国分寺町公民館（現本多）開館
64/S39	11	国分寺市制施行
69/S44	3	社会教育委員会議「国分寺市社会教育施設計画要項」（五館構想）を建議
71/S46	11	教育講座参加者から保育要求出され保育を実施する
72/S47	4	保育者賃金を予算化（主催と自主グループの保育開始）
	9	「公民館附属保育施設設置に関する陳情」（⇒採択）
	10	保育グループから市長へ「附属保育施設についての要望書」
	3	市長と本多児童館内へ公民館保育室の設置についての覚書を交わす
73/S48	4	恋ヶ窪公民館開館
74/S49	5	本多児童館内に公民館保育室設置
	5	恋ヶ窪で主催講座の保育を開始
75/S50		本多「保育室を考える会」定例化
	10	光図書館会議室（現公民館）開館（専用保育室設置）
77/S52	1	第16回東京都公民館大会に「保育室分科会」が設けられる
	3	本多『母と子のひろば』発刊
78/S53	4	光公民館条例設置
	9	もとまち公民館開館（専用保育室設置）
	10	光のグループが「自主グループ保育者賃金に関する要望書」提出
	2	光公民館保育室だより『陽だまり』創刊
79/S54		本多『保育室だより』創刊
		第18回東京都公民館大会で国立市が『学習としての託児』のレポート
80/S55		恋ヶ窪自主グループ保育開始
	2	第19回東京都公民館大会（国分寺市で開催）で国分寺市がレポート
		四館の保育者合同研修開始
	3	もとまち保育室だより『めだか』創刊

年度	月	主なできごと
81/S56	7	本多公民館改築のため仮設へ移転
82/S57	9	光の自主グループから「保育者賃金増額要望書」
	12	もとまちの自主グループから公民館保育室保育者賃金増額に関する陳情（⇒採択）
83/S58	7	本多公民館改築完成（専用保育室設置）
	12	行財政改革案出る
	12	四館自主グループ合同の「公民館保育室に関する陳情」（⇒採択）
	3	本多『保育室のあゆみ』創刊
84/S59	6	国分寺市公民館のつどいで「公民館保育室から学んだもの」のレポート
	10	恋ヶ窪公運審「恋ヶ窪公民館の保育室のあり方について」答申
86/S61	10	四館保育室利用グループから並木公民館建設検討委員会へ専用保育室設置についての要望書（1月に教育長あてにも再提出）
	11	北部地区公民館（現並木公民館）の建築原案に保育室が図書館のおはなし室と兼用案が出される
	1	もとまち公運審「婦人の学習と公民館保育室」答申
	3	恋ヶ窪の自主グループ「専用保育室設置（和室）改築予算に関する陳情」（⇒採択）
87/S62		恋ヶ窪の和室を保育室にも使用しやすいように改装
88/S63	8	並木公民館開館（専用保育室設置）
	3	光公運審「保育室貸し出しの基本的な考え方」提言
89/H1	11	光『公費保育外利用規程』作成
		五館の公民館保育室利用者の「国分寺市公民館保育室の会（五館の会）」発足
	12	もとまち公運審「もとまち公民館保育予算の見積書通りの実現に関する要望書」
90/H2	11	「国分寺市公民館保育室の会」から教育長へ保育者賃金増額要望書提出
93/H5	4	保育者賃金予算五館合計10,121,000円
94/H6	4	保育者賃金予算五館合計10,121,000円
	通年	光公民館増改築中は公民館は仮設に移転し、保育は西町プラザ・ひかりプラザ・西町体育室を使用
95/H7	4	光公民館改築完成（保育室改装）
96/H8	4	保育者賃金予算が主催と自主グループに分けて計上される
	12	行政改革検討委員会中間答申出される（保育の利用者負担）
97/H9	7	国分寺市行政改革の推進について（答申）

年度	月	主なできごと
98/H10	6	行政改革実施計画 ①自主グループにおける保育は参加者の一部負担や子育て支援の見地から検討 ②公民館保育室の一般開放
	3	公民館体制検討委員会の報告
99/H11	9	『国分寺市立公民館保育室運営規程』制定
00/H12	4	『国分寺市立公民館保育室使用実施細目』制定
01/H13	4	4年連続保育者賃金予算 五館合計6,893,000円に
	12	“けやきの広場”の一環として「国分寺の公民館保育30周年記念のつどい」開催
06/H18	4	保育者賃金予算の一本化で計上される
09/H21		五公民館で耐震工事を中心とした改修工事实施。保育室活動は休館中縮小
10/H22	4	恋ヶ窪公民館に保育室設置 それにともない実施基準一部改正
11/H23	11	保育室活動40周年記念事業開催

## 2. 五館主催事業（保育あり）

### 本多公民館保育付き主催事業

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
71/S46	教育講座	6	日本の教育はどうなるか	持田栄一	
72/S47	教育講座	6	再び日本の教育を考える	大橋謙策	
	成人歴史講座	8	明治維新と現代	川村善二郎	
	国分寺の社会教育を考える市民のつどい	1	社会教育における保育について 他	伊藤雅子 他	社会教育における保育を考える会のち保育グループへ
73/S48	保育講座	8	幼児から乳児に至るまでの保育を考える	久保田 浩口	つくしグループ
	教育講座	9	子供の勉強・学力	山住正己	
74/S49	幼児教育講座	10	子どもの生活を見直してみましよう	一番ヶ瀬康子口	
	地方自治講座	10	子どもの生活環境を考える	三吉 達 他	
	教育講座	9	教育のあり方	永畑道子 他	
	手作り遊具教室	6	作製	及部克人	
75/S50	幼児教育講座	13	自然の中の遊び口	渡辺 明 他	
	ペープサート	5	母と子のはなしの世界	永柴孝堂	
	陶芸教室	10	湯呑み 等	谷田成雄	
	教育講座	9	親の教育観を考えてみよう	小林文人	女の会
	自治問題講座	5	日本経済と私達の暮らし	工藤芳郎	
	柳田国男を考える	7	生い立ち	宮田 登	
76/S51	手作り絵本教室	7	絵本づくり口	瀬名恵子口	絵本の会
	幼児教育講座	11	子どもの目で…	久保田 浩 他	
	教育講座	6	今子どもたちはどのような人間にそだっているのでしょうか	遠藤豊吉 他	
	婦人問題講座	6	今、おんなは…	吉武輝子	
	文学講座	8	今昔物語集	川本信幹	
	歴史講座	9	昭和史	川村善二郎	
	地方自治講座	8	まちづくりの主人公に	田辺敏郎	
	婦人学級講座	6	主婦と法律	中島通子	



年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
77/S52	幼児教育講座	10	見直そう子どもと親の関係	羽仁説子 他	ゆずり葉
	人形劇講座	18	手作り人形劇	人形劇団プーク	人形劇グループ
	地方自治講座	6	私たちの暮らしと地方自治	高木鉦作 他	
	歴史講座	9	近代日本の女性史	西村汎子	歴史グループ
	教育講座	5	ほんとうの学力とは	後藤重三郎	
	婦人学級講座	6	私たちの老後を考える	林 千代 他	
78/S53	幼児教育講座	13	幼児の心と体を考えよう□	岡本富郎□	
	戦後史講座	10	戦後日本と私たち	川村善二郎	
	地域を考える講座	15	私たちのまちの学習活動と地域の教育を考える	酒匂一雄 他	
79/S54	公民館を考える	5	本多の改築にむけて	岡本包治 他	
	歴史講座	11	日本の近代化について	川村善二郎	
	地域を考える講座	15	子どもの生活と地域	斉藤次郎 他	
	きり絵教室	5	制作	木本有太可	ゆうぎり
80/S55	幼児教育講座	20	今子どもを育てること□	谷内真理子□	風花
	地域を考える講座	13	子育てと地域	太田政男 他	
81/S56	若い母親のための教室□	15	子どもを育てること□	谷内真理子□	しゃべっていい友
	地域を考える講座	12	子どもを育てることと地域	末本 誠	
82/S57	若い母親のための教室	15	今子どもを育てること	谷内真理子	スクランブルエッグ
83/S58	若い母親のための教室	15	今子どもを育てること	谷内真理子	いっつみい
84/S59	若い母親のための教室	15	子どもを育てることと母親の生き方	谷内真理子□	ホップステップジャンプ
	地域を考える講座	8	くらしと子育て	長浜 功	
	人形劇講座	10	簡単な人形づくり□	高木政則	
85/S60	若い母親のための教室□	20	子どもを育てることと母親の生き方	谷内真理子	おにおんず
	地域を考える講座	8	子どもの生活・学校・家庭	青木 悦 他	
86/S61	若い母親のための教室	20	子どもを育てることと母親の生き方	谷内真理子	おひさまこぞう
	地域を考える講座	10	国分寺のまちづくりを考える	日下部禧代子 他	
	子ども文化講座	7	手作りおもちゃ	小山博司	

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
87/S62	若い母親のための教室	20	子どもを育てることと母親の生き方	田中スウラ	ひつじ組
	切り絵入門教室	9	切り絵への誘い	木本有太可	
88/S63	若い母親のための教室	20	子どもを育てることと母親の生き方	田中スウラ	ぞうさんのしっぽ
	パステル画教室	10	実習	伊庭野 肇	
89/H1	若い母親のための教室	20	子どもを育てることと母親の生き方	向井承子 他	わっはっは 輪母の会
	透明水彩画教室	10	基本からの講習	河野興二	
90/H2	若い母親のための教室	16	親・子	鈴木みゆき 他	たあとる
	刻字教室	10	制作（原木に好きな言葉を彫る）	蔵元訓征	
91/H3	母と子の教室	20	たのしい子育てにむけて	いのうえせつこ	アンダンテ
	人形劇	12	つくって演じて楽しんで	山根宏章 他	
92/H4	母と子の教室	21	親と子・あらたなる仲間発見 を求めて	いのうえせつこ	こんぺいとう
	絵本と語りの講座	10	子どもの心を育てるために	櫻井美紀	Q P クラブ
93/H5	母と子の教室	21	子どもを見つめる眼を確かな ものに	いのうえせつこ	P & C
	ビデオ教室	10	ホームビデオを充実させよう	楠かつのり	
94/H6	母と子の教室	20	自分の思い 出し合ってみま せんか	いのうえせつこ	くまさん <sup>2</sup>
	手作りおもちゃ教室	10	ぬくもりのあるおもちゃ	多田千尋 他	おもちゃクラ ブ
95/H7	母と子の教室	21	子どもも自分も大切に暮ら しを目指して	鈴木由美子	ライフ
96/H8	母と子の教室	30	地域で仲間と暮らす	鈴木由美子	けやきねっと (⇒クローバー)
97/H9	母と子の教室	21	仲間とともに今をみつめる	山口遼子	Beans (⇒クローバー)
98/H10	母と子の教室	22	子どもと暮らしからみつめる	山口遼子	ポレポレ
99/H11	母と子の教室	28	自分の時間を取り戻し暮らし を見つめる	山口遼子	パステル
00/H12	母と子の教室	22	子どもが幼い時の暮らし	堀江まゆみ	ぶんぶん (⇒ガチャ)
01/H13	母と子の教室	25	子どもとともに自分を育てる	キムエキョン 金愛慶	ももこ (⇒ガチャ)
02/H14	幼い子のいる女性のため の教室	23	ひとりじゃないよ、みんなで考え よう！	堀江まゆみ	あんぶりん
03/H15	幼い子のいる女性のため の教室	19	自分を知り、仲間と学ぶ	キムエキョン 金愛慶	まんぐろ〜ぶ
04/H16	幼い子のいる女性のため の教室	21	仲間とともに子どもの育ちを 見つめる	キムエキョン 金愛慶	きら×2

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
05/H17	幼い子のいる女性のための教室	21	子育てについてともに語り合おう	キムエキョン 金愛慶	はびねす
06/H18	幼い子のいる女性のための教室	20	子どもの育ち・大人の暮らし	高田文子	Wish
07/H19	幼い子のいる親のための教室	20	子どものいる暮らし、今と未来	高田文子	とことこ
	講座・子どもの育ちを考える	8	もうすぐ幼稚園ーいま大事にしたいこと	霜出博子 他	
	保育室学習会 本多公民館で保育室活動をしたあなたへ	1	みんなで話そうよ… ～自分にとっての“活動”の意味を考える～	なし	
08/H20	幼い子のいる親のための教室	20	子どものいる暮らし	高田文子	色えんぴつ
09/H21	幼い子のいる親のための教室	20	子どもと自分の暮らしを考えよう	高田文子	ひまわり
10/H22	幼い子のいる親のための教室	20	子どものいる暮らしを仲間と考えよう	金田利子	マカロン
11/H23	幼い子のいる親のための教室	20	子どものいる暮らしを仲間と考えよう	高田文子	ルピナス

## 恋ヶ窪公民館保育付き主催事業

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
74/S49	公害講座	7	私たちの生活と公害	宇井 純 他	
	教育講座（春）	6	現代社会と家庭教育	遠山 啓 他	
	教育講座（秋）	8	いきいきした子どもの成長を願って	高山英男 他	
75/S50	教育講座	9	子供の発達の保障をめぐって	浅川道雄 他	
	公害講座	9	身近な公害を考える	近藤完一 他	
	講座現代社会と非行	8	非行とはなんですか 他	成田文彦 他	
	講演会	3	婦人問題と教育	藤井治枝	
76/S51	教育講座	8	現代のこどもと教育	野村東助 他	
	やさしい福祉講座	8	私たちにとって福祉とは 他	大橋謙策 他	
	講座「家族」	8	考えてみませんか「家族」	山村 健 他	
	公害講座	9	家族の健康と公害	吉田 勉 他	
77/S52	公害講座	8	私たちの健康と環境	竹下隆三 他	
	生活技術講座	4	じんべい作り	戸塚妙子	
	婦人問題講座	9	家庭から社会へ	長谷川知子 他	
	文学講座	12	文学講座へのお誘い	山蔦 恒	
	教育講座	9	自立して生きる力をつけるために	矢野寿男 他	
	講演会	1	景気と円高	吉永 実	
78/S53	教育講座	8	いきる力を考える	なだいなだ 他	
	福祉講座	8	こどもと福祉	大橋謙策 他	
	婦人問題講座	8	家庭から社会へ	広田寿子	
79/S54	教育講座	5	能力と発達と学習について	田中孝彦	
	心理学講座	8	子どもの発達と心理	福富 護	
	婦人問題講座	8	家庭を問いなおす	佐藤慶子	
	生活講座	7	今、子どものからだは	阿部茂明 他	
	歴史講演会	1	古代武蔵国の政治と庶民の生活	滝口 宏	

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
80/S55	婦人問題講座	9	社会の中の婦人問題	武田京子	
	生活講座	7	やさしい栄養学	内藤敬子	
	心理学講座	8	思春期～青年期の発達と心理	福富 護	
	教育講座	9	高校生の生活と学力	藤岡貞彦	
81/S56	教育講座	6	基礎学力と中学時代	三井大相	
	婦人問題講座	14	さわやかな中年期のために	漆田和代	
82/S57	講座育児期を考える	12	子どもを発見すること	三上康子	
83/S58	幼児教育	13	子どもの心の発達	武田京子 他	
84/S59	幼児教育	13	子どもの発達のみちすじ	武田京子 他	
85/S60	幼児教育	13	子どもからの出発	武田京子 他	ほうき星
86/S61	幼児教育	13	育児期の暮らしと成長	林 緑 他	スイミー
87/S62	幼児教育	16	子どもの認識・体験・なかま	斎藤菊代	さくらんぼ
88/S63	母と子の教室	20	幼い子どもを育てる日々を見つめ直してみませんか	折井美那子	飛行船
89/H1	母と子の教室	20	幼い子どもを育てる日々を見つめ直してみませんか	折井美那子	飛鳥
90/H2	母と子の教室	20	幼い子供を育てる日々	川田文子	林檎組
91/H3	母と子の教室	20	幼い子を育てる暮らしを見つめ直してみませんか	川田文子	ニコニコつくしんぼ
92/H4	母と子の教室	20	子どもを育てる日々を見つめ地域に友人を作ろう	川田文子	マザーズクラブ
93/H5	母と子の教室	20	初めての子どもを育てているおかあさんへ	橘 由子	テディ・ママ
94/H6	母と子の教室	20	公民館保育室に子どもを預け教室で学んでみませんか？	橘 由子	ふうせん
95/H7	母と子の教室	20	考えてみませんか？ 子どもとの暮らし、自分自身のこと	川田文子	ぼけっと
96/H8	母と子の教室	20	自己表現のトレーニングをしてみませんか	紫恒幸子	ぶー・ふー・うー
97/H9	母と子の教室	20	子どもも私もいきいきと暮らすために	曾田蕭子	くれよん
98/H10	母と子の教室	20	仲間といっしょに生きる	紫垣幸子 他	たんぼぼ
99/H11	母と子の教室	20	自分のこと子どものことを話し合える関係になるために	川田文子	ふたば
00/H12	母と子の教室	20	考えてみませんか？ 子どもとの暮らし、自分自身のこと	山口遼子	クローバー
01/H13	母と子の教室	20	子育て・自分自身一緒に考えよう	山口遼子	こるり

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
02/H14	幼い子のいる女性のための教室	20	自分・子ども、自立の一步を	山口遼子	バニラ
03/H15	幼い子のいる女性のための教室	20	きらきからお母さんすくすく子どもたち	岡本公子 他	クロッシュ・M
04/H16	幼い子のいる女性のための教室	15	きらきからお母さんすくすく子どもたち	岡本公子	ポレポレ
05/H17	幼い子のいる女性のための教室	19	新しい子育てのスタイルを考えてみませんか	渡辺美恵子	すくすく
06/H18	幼い子のいる女性のための教室	20	共に新しい子育てスタイルを考えてみませんか	渡辺美恵子	メイリーン 美麗心
07/H19	幼い子のいる親のための教室	20	心と身体をリフレッシュ	岡本公子	ポプラ
08/H20	幼い子のいる親のための教室	20	身体を動かし元気アップ	岡本公子	アミカ
09/H21	幼い子のいる親のための教室	19	身体を動かしリフレッシュ	岡本公子	たんでんず
10/H22	幼い子のいる親のための教室	20	子どもの遊びを通じて	吉川良子	モーネ
11/H23	幼い子のいる親のための教室	20	子どもにとって大切なこと	吉川良子	

## 光公民館保育付き主催事業

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
76/S51	子どもを考える講座	6	健やかな成長のために	竹内音治 他	
77/S52	漢詩入門講座	6	唐詩の心	石川忠久	桃源詩会
	教育講座	9	教育の歴史	中野 光	
	在宅幼児を考える会	1	ひとりぼっちあつまれ!	なし	ピッコロ
78/S53	児童文学講座	8	児童文学の世界	代田 昇 他	ぐるうぶ・めるへん
	音楽講座	10	身近な楽器をもちよってアンサンブルを楽しもう	後藤寿美	アンサンブル碧空
	教育講座	9	家庭と子どもの関わり～父親・母親の心構え	渡辺益男 他	
79/S54	音楽講座	10	合奏で音楽のよろこびを	後藤寿美	
	児童文学講座Ⅱ	9	幼年童話の世界	渋谷清視 他	ころぼっくる
	教育講座	13	P T A入門	永畑道子 他	
80/S55	教育講座	10	子どものしあわせと教育	小川博久	つくしの会
	住民自主講座	8	愛と自立を描く子どもの文学	渋谷清視 他	
	婦人問題講座	6	わたしと婦人問題	木村 栄	
81/S56	婦人問題講座	10	人間関係の広がり求めて	西村由美子	サークル視点
	生活問題講座	7	食べることを通して健康を考える	増尾 清 他	光生活グループ
	歴史講座	10	私たちにとって近代史とは?	小松良郎 他	歴史の会
82/S57	女の生き方を考える講座	8	人生80年時代を見つめる	柴山恵美子	女の生き方を考える会
	生活問題講座	6	食品添加物の実態を知ろう	武田玄吾	
	講座現在の平和を考える	7	現在の平和を考える	高橋弘殷	(現在の平和を考える会)
83/S58	乳幼児期の子育て	9	初めての子育てのひとへ	小川清実	
	歴史の中の教育	11	教育のめざした人間像	小野征夫	
84/S59	乳幼児期の親子関係をみつめる	16	子育ての現実をふりかえる	木村 栄 他	どろんこ
85/S60	幼い子を育てている人の教室	21	子どもを育てながら自分を生きる	折井美耶子	
86/S61	幼い子を育てている人の教室	20	人間らしい生き方を求めて	橋本紀子	あひるの行進(⇒メロディ)
87/S62	幼い子を育てている人の教室	20	子どもとの関わりを考える	小沢牧子	ハッピートーク

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
88/S63	子どもと自分のための教室	20	閉ざされた子育てを開くために	小沢牧子	いちごクラブ
89/H1	若い母親のための教室	20	子どもを人間として大事にするために	高村瑛子	TOGETHER
90/H2	幼い子を持つ母親の教室	15	母も子も人間らしく育ち合うために	谷内真理子	チャレンジ
91/H3	幼い子を持つ母親の教室	18	母も子も育ち合うために	谷内真理子	つみき
92/H4	幼い子を持つ母親の教室	18	母も子も育ち合うために	青木 悦	スパイス
93/H5	生活日本語教室	34	楽しく日本語を学びませんか		
	幼い子をもつ母親の教室	20	母も子も育ち合うために	青木 悦	パレット
94/H6	生活日本語教室	35	楽しく日本語を学びませんか		
	幼い子をもつ母親の教室	20	母も子も育ち合うために	青木 悦	ティポット
95/H7	生活日本語教室				
	幼い子をもつ母親の教室	19	母も子も育ち合うために	青木 悦	
96/H8	生活日本語教室	35			
	幼い子をもつ母親の教室	17	母も子も育ち合うために	高橋道子	たんぽぽ
97/H9	生活日本語教室	37			
	幼い子をもつ母親の教室	20	母も子も育ち合うために	高橋道子	チューリップ
98/H10	生活日本語教室	37			
	母と子の教室	23	幼い子との暮らしを考える	藤村美津	てくてく
99/H11	生活日本語教室	35			
	母と子の教室	22	仲間とともに暮らしをつくる学びを	藤村美津	マーブル
00/H12	生活日本語教室	37			
	母と子の教室	21	仲間とともに暮らしをつくる学びを	藤村美津	わおん 和音
01/H13	母と子の教室	22	子どもと一緒に大きくなろう 子どもの成長・大人の成長	高橋道子	なべっこ
	外国人のための生活日本語教室（春・秋・冬）	38			
02/H14	幼い子のいる女性のための教室	20	子どもも親もはじめての一步 地域の子育てを知ろう	高橋道子	Pee ka boo
	外国人のための生活日本語教室（春・秋・冬）	24			



年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
03/H15	幼い子のいる女性のための教室	20	子育てはみんなですればこわくない 地域の子育ていろいろ	高橋道子	バンビーノ
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	37			
04/H16	幼い子のいる女性のための教室	20	子育てのこと、一緒に話し合ってみ ませんか 我が家の子育て・隣の子 育てをそしてみんなで子育て	高橋道子	アルゴリズム
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	35			
05/H17	幼い子のいる女性のための教室	20	子育て中の自分を見つめて	辻 智子	ALICE@パーク
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	37			
06/H18	幼い子のいる女性のための教室	20	子育て中の自分を見つめて	辻 智子	ぱれっと
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	37			
07/H19	幼い子のいる親のための 教室	20	子育てのこと考えてみま せんか	辻 智子	ぐんぐん
	心理学講座	6	自分の気持ち、子どもの気持 ちを学びませんか	新屋恭子	
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	39			
08/H20	幼い子のいる親のための 教室	20	子育て・自分育て	辻 智子	メロディ
	親子育て講座	7	楽しい子育てをするために	濱田純子 他	メルヘンランド
	外国人のための生活日本語 教室（秋・冬）	24			
09/H21	幼い子のいる親のための 教室	20	親と子のつながり	佐野育子 他	楓
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋）	36			
10/H22	幼い子のいる親のための 教室	20	私と子どもと仲間	佐野育子 他	Bumble bee
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	37			
11/H23	幼い子のいる親のための 教室	20	子どもを育て 自分を育てる	近藤牧子	みるふいーゆ
	外国人のための生活日本語 教室（春・秋・冬）	35			

もとまち公民館保育付き主催事業

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
78/S53	連続講演会	4	公民館について	小林文人	
79/S54	幼児教育講座	10	幼児の生活をみつめなおす	久保田 浩 他	
	私と昭和史	11	前期	折井美耶子	
	手づくり文化教室	9	紙芝居をつくりましょう	川崎大治	グループ 紙芝居
80/S55	幼児教育講座	10	親と子は<共育>	梅原利夫 他	みのりの会
	私と昭和史	11	後期～戦後編	折井美耶子	
	手づくり文化教室	10	影絵にチャレンジ!	後藤 圭 他	かげほうし
81/S56	幼児共育講座	10	親と子が共に育つこととは	田中孝彦 他	あすなる
	私と日本近代史	11	明治維新と自由民権運動	川村善二郎	
	教育講座	8	子どもに生きる力を与えるための教育とは	梅原利夫	教育グループ
82/S57	幼児共育講座	12	子育てと母親の生き方を考える	渡辺 明	めばえ
	教育講座	8	子どもの求める心によって展開する学習とは	小松恒夫 他	おいもの会
83/S58	幼児共育講座	11	育つ子どもを支える親に	渡辺 明	カンガルー
	心と体の健康を考える講座	10	子どもからおとなまで心豊かに生きるために	行野外雄 他	
	おはなし教室	9	楽しく声を出しましょう!!	中島 研 他	おはなしの会
84/S59	幼児共育講座	10	子育てと母親の生き方を考える	鈴木佐喜子	色えんぴつ
85/S60	教育講座	14	今、真剣に生きていますか	室 俊司 他	わの会
	幼児共育講座	15	子どもを見る目をたしかなものに	鈴木佐喜子	メロンパン
86/S61	教育講座	9	共に生きる人間関係を求めて	伊藤順康 他	「わの会」へ 合流
	幼い子どものいるおかあさんへ	16	子育てと母親の生き方を考える	村田晶子	ひまわり
87/S62	教育講座	9	男と女 人間らしく生きるための教育を求めて	中藤洋子 他	教育グループ
	幼い子どものいる母親の講座	16	子どもの育ちと今の自分自身をみつめる	村田晶子	きしゃぼっぽ
88/S63	幼い子どものいる母親の講座	16	子どもの育ちと今の自分自身をみつめる	川田のり子	たんぼぼ
89/H1	幼い子のいる母親の教室	17	楽しい育児を目指して	三沢直子	おもちゃばこ 童具箱
90/H2	幼い子のいる母親の教室	20	仲間との出会いを求めて	三沢直子	ママミーヤ

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
91/H3	幼い子のいる母親の教室	20	充実した日々を目指して	三沢直子	しゃぼんだま
92/H4	幼い子のいる母親の教室	20	母となった自分を見つめる	池田祥子	しゅうくりいむ
93/H5	幼い子のいる母親の教室	20	幼い子のいる暮らしを豊かに	池田祥子	ひこうせん
94/H6	幼い子のいる母親の教室	21	「女性の時代」を超えて	山下悦子	オムレツ
	女性文学講座	9	時代を生きる女たち	山本千恵	
95/H7	幼い子のいる母親の教室	22	大人も子どもも育つ暮らしを	曾田薫子	アップル
	女性問題講座	8	自分の名前で生きること	折井美耶子	
96/H8	幼い子のいる母親の教室	19	子育て仲間と明日の物語をつくらう！	曾田薫子	ひまわり
	女性問題講座	7	母性神話を問い直す	服藤早苗	
97/H9	幼い子のいる母親の教室	20	子どもを育てる暮らし	桜井由幾	カモミール
	女性問題ゼミナール	10	子育て仲間と明日をひらこう	曾田薫子	
98/H10	母と子の教室	18	母も子どもも自立して元気に	桜井由幾	「カモミール」へ合流
	女性問題ゼミナール	9	子育て仲間と明日をひらこう	桜井由幾 他	
99/H11	女性問題ゼミナール	9	地域で楽しい子育てを！	桜井由幾	「カモミール」へ
	母と子の教室	20	深呼吸して 子育て・自分育て	北村年子	しんこきゅう
00/H12	母と子の教室	27	深呼吸して 子育て 自分育て	北村年子	おひさま
01/H13	母と子の教室	19	リラックスして子育て・自分育て	北村年子	MUT
02/H14	幼い子のいる女性のための教室	18	リラックスして子育て・自分育て	北村年子	COCO
03/H15	教育講座	8	学ぶってどういうこと	有賀政夫 他	
	幼い子のいる女性のための教室	19	今、そしてこれからを見つめて	浜 文子	おもちゃ箱
	親と子のエンジョイライフ	8	絵本・語り・手遊び・おもちゃの魅力に触れる	大森典子 他	
04/H16	幼い子のいる女性のための教室	18	親になるってどういうこと	浜 文子	ぐーちーぱー
	教育講座	12	地域で子どもを育てる	河野正一郎 他	
05/H17	幼い子のいる女性のための教室	18	自分らしい子育てスタイルを仲間と共にみつけよう	長澤恵美	バンビーナ
06/H18	幼い子のいる女性のための教室	20	子どもが幼い時期を楽しむために	長澤恵美	「バンビーナ」に合流
	幼い子のいる女性のためのピラティス	9	ピラティスマットエクササイズ	河野由紀	ママティス

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
07/H19	幼い子のいる親のための教室	20	子どもたちの育ちを考える	北村洋子	トイズ□
08/H20	幼い子のいる親のための教室	20	地域で子育て仲間をつくろう	北村洋子	Pti*Pti
09/H21	幼い子のいる親のための教室	20	仲間と過ごす学びの時間	北村洋子	ゆいま〜る
10/H22	幼い子のいる親のための教室	20	地域の子育て仲間と話そう	土肥康子	WOMAMA
11/H23	幼い子のいる親のための教室	20	地域の子育て仲間と話そう	土肥康子	こどもと

## 並木公民館保育付き主催事業

年度	事業名	回数	テーマ	講師	結成グループ
88/S63	母と子の暮らしをみつめる講座	19	乳幼児のいる暮らしをマップ(地図)に	及部克人 他	おーい
89/H1	母と子の暮らしをみつめる講座	21	マップで探ろうあそびの世界	及部克人 他	「おーい」へ
90/H2	母と子の暮らしをみつめる講座	14	私らしく、あなたらしく共に生きる	駒野陽子 他	MOMO
91/H3	母と子の暮らしをみつめる講座	17	私らしく、あなたらしく共に生きる	駒野陽子 他	にこにこ島
92/H4	母と子の暮らしをみつめる講座	17	育児する日から社会をみつめて	陣内律子 他	らっこだっこ
93/H5	母と子の暮らしをみつめる講座	19	今、子どもを育てるときに	曾田蕭子	H <sub>2</sub> O
94/H6	母と子の暮らしをみつめる講座	19	今、子どもを育てるときに	曾田蕭子	プラス
95/H7	母と子の暮らしをみつめる講座	18	母と子の豊かな暮らしにむけて	杉山由美子	コロボックル
96/H8	母と子の暮らしをみつめる講座	19	親も子どもも伸びやかに	杉山由美子	UNO
97/H9	母と子の教室	19	親も子どもも求める「いきいきした暮らし」	杉山由美子	CAM <sup>2</sup>
98/H10	母と子の教室	19	地域で生きる～仲間とともに	杉山由美子	ひらけごま
99/H11	母と子の教室	19	母と子の暮らしをみつめる	武田京子	きらきら
00/H12	母と子の教室	18	子どもが育つ 自分をみつめる	鈴木由美子	げんき
01/H13	母と子の教室	19	子どもの成長・自分自身のこと	鈴木由美子	ポコアポコ
02/H14	幼い子のいる女性のための教室	19	暮らしをみつめて 子育て自分育て	鈴木由美子	Tea Time
03/H15	幼い子のいる女性のための教室	19	子どもとともに育ちあおう	永田陽子	パラダイス
04/H16	幼い子のいる女性のための教室	19	子どもとともに育ちあおう	永田陽子	ソレイユ
05/H17	幼い子のいる女性のための教室	19	子どもとともに育ちあおう	永田陽子	C i a o
06/H18	幼い子のいる女性のための教室	19	子どもとともに育ちあおう	濱田純子 他	ひだまりST
07/H19	幼い子のいる親のための教室	19	子育てを楽しむために	濱田純子 他	4season's
08/H20	幼い子のいる親のための教室	20	育ちあう子育て	松永静子 他	スマイル
09/H21	幼い子のいる親のための教室	19	子どもの成長をみつめる	猪熊弘子	ボワ・ママン
10/H22	幼い子のいる親のための教室	20	子どものいる暮らし 家族の中のわたし	猪熊弘子	ポコアポコ
	子どもの育ちを考える	8	子どものいる暮らし	平出美栄子	ソレイユ
11/H23	幼い子のいる親のための教室	20	子どもとの関係楽しんでいますか	猪熊弘子	こあらっこ

### 3. 保育者賃金（予算）の推移

年度	総額	単価＋交通費	備考
71/S46			本多で保育開始（予算措置なしで保育実施）
72/S47	32,000		
73/S48	200,000		恋ヶ窪開館
74/S49	869,000		恋ヶ窪で保育開始
75/S50	1,391,000		光開館
76/S51	1,573,000		光で保育開始
77/S52	1,869,000	530	
78/S53	2,090,000	560	もとまち開館・保育開始
79/S54	2,360,000	570	
80/S55	3,347,000	590	
81/S56	3,712,000	620	
82/S57	3,800,000	640	
83/S58	3,831,000	640	12月議会で「自主グループの公民館保育室に関する陳情」採択
84/S59	3,831,000	640	
85/S60	4,463,000	640	
86/S61	4,824,000	640+30	交通費支給開始
87/S62	4,871,000	640+30	
88/S63	5,609,000	650+30	並木開館・保育開始
89/H 1	6,265,000	670+30	
90/H 2	7,181,000	720+50	五館の会が教育委員会に要望書提出
91/H 3	8,566,000	800+50	
92/H 4	9,605,000	900+60	
93/H 5	10,121,000	900+60	
94/H 6	10,121,000	900+60	
95/H 7	9,110,000	900+60	五館の会が予算削減に対し6月市議会に陳情
96/H 8	9,110,000	900+60	主催 5,700,000 自主 3,410,000
97/H 9	7,430,000	900+60	主催 5,140,000 自主 2,290,000
98/H10	6,893,000	900+60	主催 4,878,000 自主 2,015,000
99/H11	6,893,000	900+60	主催 4,878,000 自主 2,015,000
00/H12	6,893,000	900+60	主催 4,878,000 自主 2,015,000
01/H13	6,893,000	900+60	主催 4,878,000 自主 2,015,000
02/H14	7,239,000	900+60	主催 4,478,000 自主 2,761,000
03/H15	7,514,000	900+60	主催 4,753,000 自主 2,761,000
04/H16	7,474,000	900+60	主催 5,090,000 自主 2,384,000
05/H17	7,767,000	900+60	主催 5,332,000 自主 2,435,000
06/H18	6,419,000	900+60	
07/H19	6,419,000	900+60	
08/H20	7,801,000	900+60	
09/H21	7,960,000	900+60	
10/H22	8,043,000	910+60	
11/H23	8,043,000	910+60	
12/H24	5,217,000	910+60	事業費50%削減に伴う減額

#### 4. 公民館だよりに掲載した市民の声・保育室特集

号	掲載年月	タイトル	氏名（グループ名）	備考
90	74/S49 1月	公民館保育室のあり方を考えよう		公民館活動を考える市民のつどい
93	74/S49 4月	本多公民館保育室のお知らせ		
		保育関係グループ紹介	たんぼぼグループ	
			つくしグループ	
		保育グループ		
97	74/S49 8月	ある日の保育メモから		表紙写真
		特集－公民館保育室		
		公民館保育室を利用して	佐藤由紀子	
		保母として	村田清子	
104	75/S50 3月	専用保育室の発足		1年のまとめから
112	75/S50 11月	「公民館保育室を考える会」誕生	蔵下滋子	
121	76/S51 8月	ご存じですか？公民館保育室		
		新しい世界の発見	東 洋子	
132	77/S52 7月	『保育室のあゆみ』作成に参加を		
144	78/S53 6月	公民館保育室はこんなところですよ		
153	79/S54 2月	保育室に理解を	佐藤鞠子	
		保育室の体験	深澤靖子	
154	79/S54 3月	これからの生き方を問われた	小松友恵（地域を考える講座）	
166	80/S55 2月	公民館保育室		表紙写真
		公民館保育室はこんなところですよ		
		公民館保育の陳情を終えて	武藤順子	
204	82/S57 12月	公民館保育室の充実を	木村（光-つくしの会） 広崎（光-ころぼっくる）	
205	83/S58 1月	保育室に子どもを預けて思うこと	篠原千恵子 （光生活グループ）	

号	掲載年月	タイトル	氏名 (グループ名)	備考
206	83/S58 2月	私たちの公民館保育室		
		若い母親と共に学んで	猪飼つや	
		「若い母親のための教室」と保育室	岸本千尋	
		笑顔がもどった母親たち	山田るみ子	
		思いがけなかった保育室	石井栄子	
		保育者としてかかわって	岩本道子	
217	83/S58 12月	公民館保育室で学んだこと	北澄静枝 (本多-たんぼぼグループ)	
218	84/S59 1月	保育室利用者が市議会に陳情		
230	85/S60 1月	保育室のあり方について (答申)		恋ヶ窪公民館
261	87/S62 8月	社会・女・子ども—今公民館保育室を共に考える		公民館のつどい
298	90/H2 9月	幼い子を持つ母親の教室 (光)を終えて	飯島智子	
302	91/H3 1月	公民館保育室	白戸智美	都公民館大会
312	91/H3 11月	自分を語ることから	番能喜代美 (光-幼い子をもつ母親の教室)	
315	92/H4 2月	孤立する母親に公的援助を	三沢直子	講師に聞く
336	93/H5 11月	保育室の一期生はいま		表紙写真
337	93/H5 12月	社会とかかわる第一歩に!	吉田 薫 (本多-母と子の教室)	
357	95/H7 8月	保育室は育ち合う場!		表紙写真
		保育室は25才		
		公民館保育室は育ち合う場		
		保育室の2時間		
		母と子の暮らしから第一歩踏み出して	杉本美智子 (光-参加者)	
		新しい発見の場に	西嶋美香 (本多-参加者)	
369	96/H8 8月	散歩道マップ	ライフ	
375	97/H9 2月	明日の物語作りを	もとまち-幼い子のいる母親の教室	
379	97/H9 6月	公民館活動から童話の世界へ	赤羽淳子	
382	97/H9 9月	H <sub>2</sub> O と曾田蕭子さん		表紙写真



号	掲載年月	タイトル	氏名(グループ名)	備考
389	98/H10 4月	本多公民館35周年		表紙写真
394	98/H10 9月	公民館保育室は育ち合う場		
397	98/H10 12月	増田太郎さんを迎えてー赤ちゃんと一緒にコンサート	吉岡典子	
411	00/H12 2月	公民館保育室活動		
		支えられて生きている実感	本多-参加者	
		友達を作りたくて	恋ヶ窪-参加者	
		参加者一言メッセージ	光-参加者	
		保育室のすごいところ	もとまち-参加者	
		“お迎え”から親と子の関係を考える	並木-参加者	
413	00/H12 4月	保育目的に公民館保育室を使えます		
414	00/H12 5月	人形劇グループがあがあ		表紙写真
417	00/H12 8月	公民館保育グループ チューリップ		表紙写真
420	00/H12 11月	地域で海外支援の活動を カンガルー		表紙写真
425	01/H13 4月	公民館保育室は30年		表紙写真
429	01/H13 8月	話したいこといっぱい！ ひとりの大人として		表紙写真
436	02/H14 3月	自分を取り戻して	秋山美佐子(本多-参加者)	
439	02/H14 6月	並木公民館は子ども連れの社交場 に変身	グループ「おーい」	グループ活動 紹介
453	03/H15 8月	地域と母親を結んで	太田明子 (並木-H <sub>2</sub> O)	
460	04/H16 3月	この出会いを大切に	正木麻子(光-幼い子のいる女性のための教室)	
		子どもといっしょに手遊びを	阿部美紀(もとまち-親子のエンジョイライフ)	
465	04/H16 8月	子育てを支えるのは仲間	大澤ゆかり (本多)	
		仲間とともに17年	堀場美之 (もとまち)	
471	05/H17 2月	幼い子のいる女性の学習のために		表紙写真
472	05/H17 3月	出会いと発見を大切に	山田淳子(もとまち-幼い子のいる女性のための教室)	
483	06/H18 2月	“気づき”からひろがり、ふかまりへ	山下智世(本多)	都公民館研究大会
489	06/H18 8月	幼い子のいる女性のための教室へどうぞ		

号	掲載年月	タイトル	氏名(グループ名)	備考
508	08/H20 3月	母子ともに学ぶ時間	高橋直子(本多-幼い子のいる親のための教室)	
512	08/H20 7月	憩いの場が魅力です	小川真理子(もとまち-ママティス)	市民協働企画
		入園前に学んで	鈴木 肖(本多-子どもの育ちを考える)	
513	08/H20 8月	幼い子のいる親のための教室の紹介		
		心身ともにリフレッシュ	長濱恵美子(恋ヶ窪-ポプラ)	
		家族と向き合うことを教えてくれた時間	風戸磨里(並木-ひだまりST)	
		地域で子育て	渡部麻子(本多-クローバー)	
		意見の違いを尊重しあう	大谷弘子(もとまち-カンガルー)	
		預ける側から預かる側になって	光吉純子(光-保育者)	
517	08/H20 12月	保育室で作られたネットワーク	荒田滋子	市民協働企画
520	09/H21 3月	母として、妻として、そして自分個人としての幸せ	田中裕子(光-幼い子のいる親のための教室)	
526	09/H21 9月	親も子も仲間づくりを目指して		
		それぞれが答えを見つけて	高橋由美(もとまち-参加者)	
		深まっていく絆	櫻井めぐみ(光-参加者)	
		心身ともにリフレッシュ	大畑有子(恋ヶ窪-参加者)	
529	09/H21 12月	子どもとともに自分らしく	ぐんぐん(光)	市民協働企画
		ミュージックベルを鳴らして6年	クロッシェ・M(恋ヶ窪)	市民協働企画
537	10/H22 8月	「幼い子のいる親のための教室」に参加しませんか		
		子育ての喜びを再確認	石野智華(光-参加者)	
		成長の楽しみ	青柳小百合(もとまち-参加者)	
		仲間と一緒に	戸谷真由美(恋ヶ窪-たんでんず)	
		地域や仲間とのつながりを大切に	恩賀洋子(並木-Ciao)	
		仲間とともに成長	蓮實麗子(本多-元保育者)	
544	11/H23 3月	子どもとの暮らしの中で	阿部奈々(並木-子どもの育ちを考える)	

号	掲載年月	タイトル	氏名（グループ名）	備考
549	11/H23 8月	「幼い子のいる親のための教室」に参加しませんか		
		仲間との貴重な時間	井口和美 (恋ヶ窪-モーネ)	
		子どもと自分が共に学べる素晴らしさ	松本祐賀子 (光-楓)	
		親子それぞれに仲間が	加藤真理子 (並木-4Season's)	
		子どもは地域で育てる	前川洋子 (本多-クローバー)	
		保育室にかかわって	山口直子 (もとまち-保育者)	
554	12/H24 1月	公民館保育室という知的財産	蓮實麗子 (40周年実行委員長)	

### 5. 保育室関係保存資料一覧（本多公民館所蔵）

年度	月	資料名称
77/S52		国分寺市立本多公民館保育室運営要綱（案）
	3	「母と子のひろば～7年のあゆみ」（本多公民館発刊）
79/S54	9	陳情第14号 公民館保育に関する陳情
83/S58	12	自主グループの公民館保育室に関する陳情（四館自主グループ）
84/S59	3	三多摩の社会教育 「公民館保育室特集」
87/S62	6	第5回公民館のつどい
88/S63	5	自主グループ「はとぼっぼ」の保育室利用要求の経過
	9	並木公民館開館記念 保育室学習会資料 「国分寺市の公民館保育のあゆみ」
89/H 1	1	めるへん10年のあゆみ（ぐるうぷ・めるへん）
	4	「はとぼっぼ」への保育室貸出回答（光公民館）
	7	国分寺市公民館保育室の運営状況（もとまち公民館）
	11	保育室の貸し出しについての資料（開放）
	1	光公民館保育室の公費保育外利用規定
90/H 2		国分寺市公民館保育室の会 予算要望書
91/H 3	10	「めだか特集号」（もとまち公民館発行）
92/H 4	3	国分寺市公民館保育室の20年
93/H 5		要望書 国分寺公民館保育室の会
93/H 5	9	私たちの公民館保育室5年のあゆみ（国分寺市立並木公民館発行）
95/H 7	3	保育予算の復活をお願いします。（並木公民館保育室利用者一同）
	5	公民館保育室予算削に関する陳情（国分寺市公民館保育室五館の会）
	7	本多公民館保育室母の会学習資料
	9	公民館保育室予算に関する陳情（国分寺市公民館保育室五館の会）
	3	事務事業総点検報告書（国分寺市事務事業総点検推進委員会）
96/S8	4	「使用料等の見直しについて」第3次報告
		行政改革中間答申指摘事項に関する取組み状況
	11	国分寺市行政改革検討委員会中間答申に関する陳情
	12	国分寺市行政改革検討委員会（中間答申）/12月意見書
97/H 9	7	国分寺市行政改革の推進について（答申）/11月要望書
98/H10	3	公民館体制検討委員会（報告）
01/H13	12	国分寺の公民館保育室30周年のつどい（資料集、メッセージ集）
12/H24	3	保育室40周年のあゆみ

※『本多公民館保育室のあゆみ』1～27（83/S58～11/H23）

# 保育室活動40周年記念事業のお知らせ (案内チラシ)

## 国分寺市立公民館保育室活動40周年記念事業 保育室 40年のあゆみ



テーマ「大人の学習の場として」  
～40年のあゆみを通して大事にしたいこと

国分寺市の公民館で保育室活動を1971(昭和46)年開始して、今年で40周年を迎えます。それを記念し、40年のあゆみを関係者の方々と語りあい、今後の公民館保育室のあり方を考え合う集いを実施します。



ホールにて、現在の保育室活動の紹介、保育室活動の歴史などを映像とお話で綴っていきます。  
40年を振り返りながら、これからの保育室活動を考えていきましょう。

日時：2011年11月20日(日)  
**13:30~15:30**  
会場：本多公民館 ホール  
申込み：申込書を最寄りの公民館にお持ちください  
※ 当日でもご参加いただけます



全体会の前は各館ごとに集まり、昼食を食べながら交流を深めます。  
懐かしい顔に出会うことができるかもしれません。ぜひ、お声を掛け合ってお集まりください。

時間：**11:30~13:00**  
昼食代：1,000円  
申込み：昼食代1,000円を添えて下記の申込書とともに最寄りの公民館に申し込んでください  
※ 切り：11月8日(火)

主催：保育室活動40周年記念事業実行委員会、本多・恋ヶ窪・光・もとまち・並木公民館  
問い合わせ先：本多(042)321-0085・恋ヶ窪(042)324-1926・光(042)576-3991  
(各公民館) もとまち(042)325-4221・並木(042)321-9971

### 保育室活動40周年記念事業 申込書

★該当する箇所に✓、○をしてください

- 交流会(11:30~)に参加します(昼食代1,000円)
- 全体会(13:30~)に参加します

お名前： \_\_\_\_\_

連絡先： (     )     -

公民館：本多・恋ヶ窪・光・もとまち・並木

### 領収書

\_\_\_\_\_ 様

昼食代として  
1,000円を領収しました

保育室活動40周年記念事業実行委員会

# 保育室活動40周年記念事業のプログラム

2011 (H23) 年11月20日 (日)

司会 (ナレーション)

廣松千晶 (本多公民館保育者・元学習者)

## 1. 五館の公民館保育室の現在

## 2. 国分寺市立公民館史上初めての託児と運動

## 3. 自主グループ保育の要望と並木公民館の建設へ

高橋雪子 (元本多・光公民館館長)

片桐純子 (光公民館学習者・保育者)

## 4. 預けることを学習活動へ

東 洋子・古田島由起子 (元本多公民館学習者)

佐藤由紀子・近藤千恵 (元本多公民館学習者)

## 5. 行革と公民館保育室

行革の指摘 (自主グループ活動の受益者負担化)

五館の会と市長面談始まる

要綱 (国分寺市立公民館保育室運営規程・

国分寺市立公民館保育室使用実施細目) 作成へ

長谷部豊子 (元本多公民館学習者)

## 6. 仲間の中で自分を見つける活動から

五館目の保育室誕生

大賀文子 (恋ヶ窪保育者)

地域の暮らしをより良いものに (1)

大澤ゆかり (本多公民館学習者)

地域の暮らしをより良いものに (2)

青木淳子 (元光公民館学習者)

仲間と学び、職業へ

岡本正子 (元本多公民館学習者)

親から保育者へ

細谷育子 (光公民館保育者・元学習者)

預けて学ぶ立場から

百瀬裕美 (本多公民館学習者)

## 7. 意見交換

自分たちにとっての保育室活動 ~これからの保育室活動に向けて

## 8. まとめ

実行委員長 蓮實麗子 (元本多公民館学習者・元保育者)



## 8. 実行委員会の経過

日程	時間	会場	内容
2010年12月13日(月)	午前10時～正午	本多公民館	企画内容の検討①
2011年4月11日(月)	午前10時～正午	本多公民館	企画内容の検討②
2011年5月9日(月)	午前10時～正午	本多公民館	企画内容の検討③
2011年7月11日(月)	午前10時～正午	本多公民館	企画の決定・記念誌について
2011年9月2日(金)	午前10時～正午	本多公民館	全体会シナリオ案検討、記念誌について、 チラシ・広報について等
2011年9月12日(月)	午前10時～正午	本多公民館	けやきの樹原稿の確認・記念誌について
2011年10月24日(月)	午前10時30分～正午	本多公民館	各館申込み状況、本番会場設営・役割分 担・配布資料等の確認
2011年11月14日(月)	午前10時～正午	本多公民館	本番最終確認・記念誌について
2011年11月20日(日)	午前11時30分～ 午後3時30分	本多公民館	本番 交流会 11時30分～13時 全体会 13時30分～15時30分
2011年11月28日(月)	午前10時30分～正午	本多公民館	反省会・記念誌編集
2011年12月26日(月)	午前10時～正午	本多公民館	記念誌の内容について
2012年2月13日(月)	午後2時～4時	本多公民館	記念誌の内容について

※  は検討委員会

### 実行委員会メンバー

(50音順)

本多公民館	恋ヶ窪公民館	光公民館	もとまち公民館	並木公民館
佐藤綾子	石川恵子	井上久美子	大谷弘子	恩賀洋子
◎蓮實麗子	大賀文子	片桐純子	○山口直子	木村久子
東 洋子	小川美由紀	河合 富	米永眞理	服部菜英
廣松千晶	黒川由紀子	細谷育子		
保科純子	島田世志子			
百瀬裕美	高塚たか子			
山下智世	土屋雅子			
山田啓子	藤本理恵			
	松村幸絵			
水越順子	棟方貞夫	保坂みどり	百瀬道子	木場理恵
中森美都子	井上ゆきえ	山本聡子	小野裕美	坂田美恵子
中川みのり			佐藤 緑	

◎＝委員長 ○＝副委員長

## 編集後記

1年ほど前から、保育室活動40周年の記念事業に向けて、実行委員会がスタートしました。しばらくして、記念事業検討委員会も並行して開かれ、具体的な取り決めや、記念誌の作成に向けて話し合われました。

実行委員会の中で、「未来に続く会にしたい」と、皆の意見が一致しました。しかし、40年間の集大成をしながら、これからの保育室活動に結びつけていくということは、本当に難しいことでした。五館それぞれの年代で、語りつくせないほどの活動があり、それを参加者が共有するにはどうしたら良いのか、何度も何度も話し合いを持ちました。また、参加する人だけのことではなく、皆の取り組みになるよう、五館でそれぞれに、三者の会（市民・職員・保育者）などで、現役世代と結びつける努力があり、徐々に40周年が浸透していきました。

当日は、各館ごとに交流し親睦を深めた後、全体会で発表という形に決めました。発表も人数が多いので、パワーポイントで分かりやすくしました。全体会には、20代から80代まで、150人の参加があり、熱い思いがホールを包み込みました。「公民館保育室は国分寺の宝」という思いがひとつになりました。

答のない、目に見えない、「人とかかわる」ことを学習するなど、社会教育の場である公民館でしかできないこと。3月に東日本大震災に遭い、地域のあり方、人と人がかかわっていくことの大事さ、など改めて考えました。そして、国分寺市の公民館の質の高さに感動し、社会教育の現場に長年かかわってきたことを誇りに思いました。保育室活動がここまで続けられたのは、職員の方々の温かい支えがあったからこそで、心から感謝申しあげます。

時代は変わり、市の財政もひっ迫し、これからの公民館保育室の存続が話題になる今、私たちの生活の基盤を作ってくれた保育室が、末永く続くことを願ってやみません。人が人を育てる、良い環境の中で育ちたい。何歳になっても言えることだと思えます。

この記念誌は、保育室40年のあゆみです。まかれた種が立派に成長し、さまざまな花を咲かせています。今後の活動の一助にさせていただき、できましたら保育室活動50周年の参考になれば嬉しく思います。

実行委員の方々には、明日の活動につながるすばらしい会になったことに、お礼申しあげます。過去と現在、そして五館がつながりました。

実行委員長 蓮實麗子



## 保育室40年のあゆみ

---

2012（平成24）年3月発行

**編集** 保育室活動40周年記念事業実行委員会

**発行** 国分寺市立本多公民館

国分寺市本多一丁目7番1号

Tel(042)321-0085

**国分寺市立恋ヶ窪公民館**

国分寺市西恋ヶ窪四丁目12番地8

Tel(042)324-1926

**国分寺市立光公民館**

国分寺市光町三丁目13番地19

Tel(042)576-3991

**国分寺市立もとまち公民館**

国分寺市東元町二丁目3番13号

Tel(042)325-4221

**国分寺市立並木公民館**

国分寺市並木町二丁目12番地3

Tel(042)321-9971

---